



CLUSTERPRO X SingleServerSafe 5.1 for Windows

操作ガイド

リリース 6

日本電気株式会社

2024 年 01 月 26 日

目次:

第 1 章	はじめに	1
1.1	対象読者と目的	1
1.2	本書の構成	2
1.3	本書で記述される用語	3
1.4	CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系	4
1.5	本書の表記規則	5
1.6	最新情報の入手先	6
第 2 章	CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス	7
2.1	コマンドラインから操作する	9
2.2	コマンド一覧	10
2.3	状態を表示する (clpstat コマンド)	12
2.4	サービスを操作する (clpcl コマンド)	16
2.5	サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)	21
2.6	グループを操作する (clpgrp コマンド)	22
2.7	ログを収集する (clplogcc コマンド)	26
2.8	構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)	35
2.9	タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)	44
2.10	ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)	47
2.11	ライセンスを管理する (clplnsc コマンド)	49
2.12	メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)	56
2.13	モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)	59
2.14	グループリソースを制御する (clprsc コマンド)	64
2.15	クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)	67
2.16	再起動回数を制御する (clpregctrl コマンド)	72
2.17	プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマンド)	75
2.18	クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (clpstdncnf コマンド)	78
2.19	クラスタ統計情報を表示する (clpperfc コマンド)	80
2.20	クラスタ構成情報をチェックする (clpcfchk コマンド)	83
2.21	ファイアウォールの規則を追加する (clpfwctrl コマンド)	85
第 3 章	注意制限事項	89
3.1	CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用後	90

第 4 章	エラーメッセージ一覧	95
4.1	セットアップ中のエラーメッセージ	96
4.2	イベントログ、アラートメッセージ	98
4.3	ドライバイベントログメッセージ	191
4.4	グループリソース活性/非活性時の詳細情報	192
4.5	モニタリソース異常時の詳細情報	196
4.6	ディスク RW 監視リソースの STOP コード一覧	236
4.7	JVM 監視リソースのログ出力メッセージ	237
4.8	ユーザ空間監視リソースの STOP コード一覧	258
4.9	クラスタ構成情報チェックの詳細情報	259
第 5 章	免責・法的通知	261
5.1	免責事項	261
5.2	商標情報	262
第 6 章	改版履歴	263

第 1 章

はじめに

1.1 対象読者と目的

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe 操作ガイド』は、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

1.2 本書の構成

- 「[2. CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス](#)」: CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。
- 「[3. 注意制限事項](#)」: 既知の問題と制限事項について説明します。
- 「[4. エラーメッセージ一覧](#)」: CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

1.3 本書で記述される用語

本書で説明する CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通の画面・コマンドを使用しています。そのため、一部、クラスタとしての用語が使用されています。

以下のように用語の意味を解釈して本書を読み進めてください。

クラスタ、クラスタシステム CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入した単サーバのシステム

クラスタシャットダウン/リブート CLUSTERPRO X SingleServerSafe を導入したシステムのシャットダウン、リブート

クラスタリソース CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるリソース

クラスタオブジェクト CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用される各種リソースのオブジェクト

フェイルオーバーグループ CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用されるグループリソース（アプリケーション、サービスなど）をまとめたグループ

1.4 CLUSTERPRO X SingleServerSafe マニュアル体系

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のマニュアルは、以下の 3 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows インストールガイド』 (Installation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアを対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のインストール作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 (Configuration Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステムの導入を行うシステムエンジニアと、システム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の構築作業の手順について説明します。

『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 操作ガイド』 (Operation Guide)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe を使用したシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO X SingleServerSafe の操作方法について説明します。

1.5 本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項および関連情報を以下のように表記します。

注釈: この表記は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要: この表記は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

参考:

この表記は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角カッコ	コマンド名の前後 画面に表示される語 (ダイアログ ボックス、メニューなど) の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角カッコ	カッコ内の値の指定が省略可能であることを示します。	clpstat -s [-h host_name]
モノスペースフォント	パス名、コマンド ライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	C:\Program Files\ CLUSTERPRO
太字	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 clpcl -s -a
斜体	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	clpstat -s [-h host_name]



本書の図では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe を表すために このアイコンを使用します。

1.6 最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下の Web サイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/clusterpro/>

第 2 章

CLUSTERPRO X SingleServerSafe コマンドリファレンス

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe で使用可能なコマンドについて説明します。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe は、クラスタリングソフトウェアである CLUSTERPRO X との操作性などにおける親和性を高めるために、共通のコマンドを使用しています。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- 2.1. コマンドラインから操作する
- 2.2. コマンド一覧
- 2.3. 状態を表示する (*clpstat* コマンド)
- 2.4. サービスを操作する (*clpcl* コマンド)
- 2.5. サーバをシャットダウンする (*clpstdn* コマンド)
- 2.6. グループを操作する (*clpgrp* コマンド)
- 2.7. ログを収集する (*clplogcc* コマンド)
- 2.8. 構成情報の反映、バックアップを実行する (*clpcfctrl* コマンド)
- 2.9. タイムアウトを一時調整する (*clptoratio* コマンド)
- 2.10. ログレベル/サイズを変更する (*clplogcf* コマンド)
- 2.11. ライセンスを管理する (*clplcnsc* コマンド)
- 2.12. メッセージを出力する (*clplogcmd* コマンド)
- 2.13. モニタリソースを制御する (*clpmonctrl* コマンド)
- 2.14. グループリソースを制御する (*clprsc* コマンド)

- 2.15. クラスタサーバに処理を要求する (*clprexec* コマンド)
- 2.16. 再起動回数を制御する (*clpregctrl* コマンド)
- 2.17. プロセスの健全性を確認する (*clphealthchk* コマンド)
- 2.18. クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (*clpstdncnf* コマンド)
- 2.19. クラスタ統計情報を表示する (*clpperfc* コマンド)
- 2.20. クラスタ構成情報をチェックする (*clpcfchk* コマンド)
- 2.21. ファイアウォールの規則を追加する (*clpfwctrl* コマンド)

2.1 コマンドラインから操作する

CLUSTERPRO X SingleServerSafe では、コマンドプロンプトから操作するための多様なコマンドが用意されています。構築時や Cluster WebUI が使用できない状況の場合などに便利です。コマンドラインでは、Cluster WebUI で行える以上の種類の操作を行うことができます。

注釈: モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、...) を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作) には、以下のコマンドまたは、Cluster WebUI からのサービスおよびグループへの制御は行わないでください。

- サービスの停止/サスペンド
- グループの開始/停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

2.2 コマンド一覧

- 構築関連

コマンド	説明	関連
clpcfctrl.exe	Cluster WebUI で作成した構成情報をサーバに反映します。 Cluster WebUI で使用するために構成情報をバックアップします。	2.8. 構成情報の反映、バックアップを実行する (<i>clpcfctrl</i> コマンド)
clplcncs.exe	本製品の製品版・試用版ライセンスを管理します。	2.11. ライセンスを管理する (<i>clplcncs</i> コマンド)
clpcfchk.exe	クラスタ構成情報をチェックします。	2.20. クラスタ構成情報をチェックする (<i>clpcfchk</i> コマンド)
clpfwctrl.bat	ファイアウォールの規則を追加します。	2.21. ファイアウォールの規則を追加する (<i>clpfwctrl</i> コマンド)

- 状態表示関連

コマンド	説明	関連
clpstat.exe	CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。	2.3. 状態を表示する (<i>clpstat</i> コマンド)
clphealthchk.exe	プロセスの健全性を確認します。	2.17. プロセスの健全性を確認する (<i>clphealthchk</i> コマンド)

- 操作関連

コマンド	説明	関連
clpcl.exe	サービスの起動、停止、サスペンド、リジュームなどを実行します。	2.4. サービスを操作する (<i>clpcl</i> コマンド)
clpstdn.exe	サービスを停止し、サーバをシャットダウンします。	2.5. サーバをシャットダウンする (<i>clpstdn</i> コマンド)
clpgrp.exe	グループの起動、停止を実行します。	2.6. グループを操作する (<i>clpgrp</i> コマンド)
clptoratio.exe	各種タイムアウト値の延長、表示を行います。	2.9. タイムアウトを一時調整する (<i>clptoratio</i> コマンド)

次のページに続く

表 2.3 – 前のページからの続き

コマンド	説明	関連
clpmonctrl.exe	モニタリソースの一時停止/再開を行います。	2.13. モニタリソースを制御する (<i>clpmonctrl</i> コマンド)
clprsc.exe	グループリソースの一時停止/再開を行います。	2.14. グループリソースを制御する (<i>clprsc</i> コマンド)
clprexec.exe	サーバへ処理実行を要求します。	2.15. クラスタサーバに処理を要求する (<i>clprexec</i> コマンド)
clpregctrl.exe	再起動回数制限の制御を行います。	2.16. 再起動回数を制御する (<i>clpregctrl</i> コマンド)

- ログ関連

コマンド	説明	ページ
clplogcc.exe	ログ、OS 情報等を収集します。	2.7. ログを収集する (<i>clplogcc</i> コマンド)
clplogcf.exe	ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。	2.10. ログレベル/サイズを変更する (<i>clplogcf</i> コマンド)
clpperfc.exe	グループ、モニタリソースに関するクラスタ統計情報を表示します。	2.19. クラスタ統計情報を表示する (<i>clpperfc</i> コマンド)

- スクリプト関連

コマンド	説明	関連
clplogcmd.exe	スクリプトリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。	2.12. メッセージを出力する (<i>clplogcmd</i> コマンド)

重要: インストールディレクトリ配下に本マニュアルに記載していない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からの実行はしないでください。実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

2.3 状態を表示する (clpstat コマンド)

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態と、設定情報を表示します。

コマンドライン

```
clpstat -s [--long]
clpstat -g
clpstat -m
clpstat -i [--detail]
clpstat --cl [--detail]
clpstat --sv [--detail]
clpstat --grp [<grpname>] [--detail]
clpstat --rsc [<rscname>] [--detail]
clpstat --mon [<monname>] [--detail]
```

説明

CLUSTERPRO X SingleServerSafe の状態や、設定情報を表示します。

パラメータ

-s

オプションなし

状態を表示します。

--long

クラスタ名やリソース名などの名前を最後まで表示します。

-g

グループを表示します。

-m

各モニタリソースの状態を表示します。

-i

全体の設定情報を表示します。

--cl

設定情報を表示します。

--sv

サーバの設定情報を表示します。

--grp [<grpname>]

グループの設定情報を表示します。グループ名を指定することによって、指定したグループ情報のみを表示できます。

--rsc [<rscname>]

グループリソースの設定情報を表示します。グループリソース名を指定することによって、指定したグループリソース情報のみを表示できます。

--mon [<monname>]

モニタリソースの設定情報を表示します。モニタリソース名を指定することによって、指定したモニタリソース情報のみを表示できます。

--detail

このオプションを使用することによって、より詳細な設定情報を表示できます。

戻り値

0	成功
上記以外	異常

備考

設定情報表示オプションは組み合わせによって、様々な形式で情報表示をすることができます。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。本コマンドは二重起動できません。
オプションを指定しない場合と -s オプションを指定する場合は、クラスタ名やリソース名などの名前が途中でまだけ出力されません。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO Information Base サービスが起動しているか確認してください。

次のページに続く

表 2.6 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid heartbeat resource name. Specify a valid heartbeat resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいハートビートリソース名を指定してください。
Invalid network partition resource name. Specify a valid network partition resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいネットワークパーティション解決リソース名を指定してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループリソース名を指定してください。
Invalid monitor resource name. Specify a valid monitor resource name in the cluster.	クラスタ内の正しいモニタリソース名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The cluster is not created.	クラスタ構成情報を作成し、反映してください。
Could not connect to the server. Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Cluster is stopped. Check if the cluster daemon is active.	CLUSTERPRO デーモンが起動しているか確認してください。

次のページに続く

表 2.6 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Cluster is suspended. To display the cluster status, use --local option.	クラスタがサスペンド状態です。 クラスタの状態を表示するには、--local オプションを使用してください。

2.4 サービスを操作する (clpcl コマンド)

CLUSTERPRO サービスを操作します。

コマンドライン

```
clpcl -s
clpcl -t [-w <timeout>] [--apito timeout]
clpcl -r [-w <timeout>] [--apito timeout]
clpcl --return
clpcl --suspend [--force] [-w <timeout>] [--apito timeout]
clpcl --resume
```

説明

CLUSTERPRO サービスの起動、停止、復帰、サスペンド、リジュームなどを実行します。

パラメータ

-s
CLUSTERPRO サービスを起動します。

-t
CLUSTERPRO サービスを停止します。

-r
CLUSTERPRO サービスを再起動します。

--return
CLUSTERPRO サービスを復帰します。

--suspend
CLUSTERPRO サービスをサスペンドします。

--resume
CLUSTERPRO サービスをリジュームします。

-w <timeout>

-t、-r、--suspend オプションの場合にのみ clpcl コマンドが CLUSTERPRO サービスの停止またはサスペンドの完了を待ち合わせる時間を秒単位で指定します。

Timeout の指定がない場合、無限に待ち合わせを行います。

Timeout に "0" を指定した場合、待ち合わせを行いません。

-w オプションを指定しない場合（デフォルト）は、
ハートビートタイムアウト× 2 秒の間、待ち合わせを行います。

--force

--suspend オプションと一緒に用いることで、サーバの状態に関わらず強制的にサスペンドを実行します。

--apito timeout

CLUSTERPRO デーモンの停止、再起動、サスペンドを待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。1-9999 の値が指定できます。

[--apito] オプションを指定しない場合は、3600 秒待ち合わせを行います。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

本コマンドを -s または --resume オプションで実行した場合、対象のサーバで処理が開始したタイミングで制御を戻します。

-t または --suspend オプションで実行した場合、処理の完了を待ち合わせてから制御を戻します。

-r オプションで実行した場合、対象のサーバで CLUSTERPRO デーモンが一度停止し、起動を開始したタイミングで制御を戻します。

CLUSTERPRO デーモンの起動またはリジュームの状況は clpstat コマンドで確認してください。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドはグループの起動処理中、停止処理中に実行できません。

サスペンドを実行する場合は、CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

リジュームを実行する場合は、clpstat コマンドを用いて CLUSTERPRO サービスが起動していないかを確認してください。

- サスペンド・リジュームについて

構成情報の更新、CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートなどを行いたい場合に、業務を継続したまま、CLUSTERPRO サービスを停止させることができます。この状態をサスペンドといいます。サスペンド状態から通常の業務状態に戻ることをリジュームといいます。

サスペンド・リジュームはサーバに対して処理を要求します。サスペンドは、CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

サスペンド状態では、活性していたリソースはそのまま活性した状態で CLUSTERPRO サービスが停止するため以下の機能が停止します。

- 全てのモニタリソースが停止します。
- グループまたはグループリソースの操作ができなくなります。（起動、停止）
- 以下のコマンドが使用不可となります。
 - * clpcl の --resume 以外のオプション
 - * clpstdn
 - * clpgrp
 - * clprsc
 - * clptoratio
 - * clpmonctrl

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Performed stop processing to the stopped cluster service.	停止している CLUSTERPRO サービスに対して停止処理を実行しました。
Performed startup processing to the active cluster service.	起動している CLUSTERPRO サービスに対して起動処理を実行しました。
Command timeout.	コマンドがタイムアウトしました。
Failed to return the server. Check the status of failed server.	サーバの復帰に失敗しました。処理に失敗したサーバの状態を確認してください。

次のページに続く

表 2.7 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Could not connect to the data transfer server. Check if the server has started up.	サーバが起動しているか確認してください。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to obtain the service name.	サービス名の取得に失敗しました。
Failed to operate the service.	サービスの制御に失敗しました。
Resumed the cluster service that is not suspended.	サスペンド状態ではない CLUSTERPRO サービスに対して、リジューム処理を実行しました。
Invalid server status.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
There is one or more servers of which cluster service is active. If you want to perform resume, check if there is any server whose cluster service is active in the cluster.	リジュームを実行する場合、クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが起動しているサーバがないか確認してください。
All servers must be activated. When suspending the server, the cluster service needs to be active on all servers in the cluster.	サスペンドを実行する場合、クラスタ内の全てのサーバで、CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。
Resume the server because there is one or more suspended servers in the cluster.	クラスタ内にサスペンドしているサーバがあるので、リジュームを実行してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してみてください。

次のページに続く

表 2.7 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	全サーバ指定で停止処理を実行した場合、処理に失敗したサーバが存在します。 処理に失敗したサーバの状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.5 サーバをシャットダウンする (clpstdn コマンド)

サーバをシャットダウンします。

コマンドライン

clpstdn [-r]

説明

サーバの CLUSTERPRO サービスを停止し、シャットダウンします。

パラメータ

オプションなし

サーバのシャットダウンを実行します。

-r

サーバのシャットダウンリブートを実行します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

本コマンドは、グループ停止処理が完了したタイミングで制御を戻します。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

本コマンドはグループの起動処理中、停止処理中に実行できません。

エラーメッセージ

「サービスを操作する (clpcl コマンド)」を参照してください。

2.6 グループを操作する (clpgrp コマンド)

グループを操作します。

コマンドライン

```
clpgrp -s [<grpname>] [--apito timeout]
```

```
clpgrp -t [<grpname>] [--apito timeout]
```

説明

グループの起動、停止を実行します。

パラメータ

-s [<grpname>]

グループを起動します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ起動します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが起動されます。

-t [<grpname>]

グループを停止します。グループ名を指定すると、指定されたグループのみ停止します。グループ名の指定がない場合は、全てのグループが停止されます。

--apito timeout

グループの起動、停止を待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。1-9999の値が指定できます。

[--apito] オプションを指定しない場合は、3600 秒待ち合わせを行います。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

CLUSTERPRO サービスが起動している必要があります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration data. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Invalid server. Specify a server that can run and stop the group, or a server that can be a target when you move the group.	グループを起動、停止、移動する先のサーバが不正です。 正しいサーバを指定してください。
Could not start the group. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループを起動させてください。
No operable group exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループが存在するか確認してください。
The group has already been started on the local server.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。

次のページに続く

表 2.8 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The group has already been started on the other server. To start/stop the group on the local server, use -f option.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。 他サーバで起動しているグループを自サーバで起動/停止させたい場合は、グループの移動を実行するか、[-f] オプションを加えて実行してください。
The group has already been stopped.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to start one or more resources. Check the status of group.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Failed to stop one or more resources. Check the status of group.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
The group is busy. Try again later.	グループが起動処理中、もしくは停止処理中なので、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on one or more groups. Check the status of group.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループの状態を確認してください。
Invalid group name. Specify a valid group name in the cluster.	クラスタ内の正しいグループ名を指定してください。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。
Some invalid status. Check the status of cluster.	何らかの不正な状態です。クラスタの状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Server is not in a condition to start group. Critical monitor error is detected.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでサーバの状態を確認してください。 グループを起動しようとしたサーバで「フェイルオーバー先サーバの除外に使用するモニタリソース」に含まれるモニタの異常が検出されています。

次のページに続く

表 2.8 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
There is no appropriate destination for the group. Critical monitor error is detected.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでサーバの状態を確認してください。 他の全てのサーバで「フェイルオーバー先サーバの除外に使用するモニタリソース」に含まれるモニタの異常が検出されています。

2.7 ログを収集する (clplogcc コマンド)

ログを収集します。

コマンドライン

```
clplogcc [-t collect_type] [-o path] [--local] [--evt event_type ...]
```

説明

ログ、OS 情報等を収集します。

パラメータ

なし

ログを収集します。

-t *collect_type*

ログ収集パターンを指定します。省略した場合のログ収集パターンは **type1** です。

-o *path*

収集ファイルの出力先を指定します。省略した場合は、インストールパスの **tmp** 配下にログが出力されます。

--local

データ転送サーバを経由せずにローカルサーバのログを収集します。

--evt *event_type*

収集するイベントログの種類を指定します。

省略した場合は、アプリケーションログ、システムログ、セキュリティログが収集されます。

none を指定すると、イベントログは収集されません。

[--local] オプション指定時のみ有効です。

詳細については、"[2.7.3. 収集するイベントログの種類の指定 \(--evt オプション\)](#)" で説明します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

ログファイルは **zip** で圧縮されているので、**zip** を解凍可能な アプリケーションを利用して解凍してください。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

実行結果

本コマンドの結果で表示される処理過程は以下になります。

処理過程	説明
Preparing	初期化中
Connecting	サーバ接続中
Compressing	ログファイル圧縮中
Transmitting	ログファイル送信中
Disconnecting	サーバ切断中
Completion	ログ収集完了

実行結果（サーバ状態）については以下になります。

実行結果（サーバ状態）	説明
Normal	正常終了しました。
Canceled	ユーザによってキャンセルされました。
Invalid Parameters	パラメータ不正です。
Compression Error	圧縮エラーが発生しました。
Communication Error	送信エラーが発生しました。
Timeout	タイムアウトしました。
Busy	サーバがビジー状態です。
No Free Space	ディスクに空き容量がありません。
File I/O Error	ファイル I/O エラーが発生しました。
Unknown Error	その他のエラーによる失敗です。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Collect type must be specified 'type1' or 'type2' or 'type3' or 'type4' or 'type5' or 'type6'. Incorrect collection type is specified.	収集タイプの指定が間違っています。

次のページに続く

表 2.11 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Specifiable number of servers is the max number of servers that can constitute a cluster.	指定可能なサーバ数は、クラスタ構成可能な最大サーバ数です。
Failed to obtain properties.	プロパティの取得に失敗しました。
Failed to obtain the list of nodes. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Failed to collect log.	ログ収集が失敗しました。
Server is busy. Check if this command is already run.	既に本コマンドを実行している可能性があります。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.7.1 タイプを指定したログの収集 (-t オプション)

指定したタイプのログのみを収集したい場合は、clplogcc コマンドで -t オプションを指定して実行します。

ログの収集タイプは type1 ~ 6、proactdiag を指定します。

	type1	type2	type3	type4	type5	type6	proactdiag
(1) デフォルト収集情報	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a	✓
(2) イベントログ	✓	✓	✓	✓	n/a	n/a	✓
(3) Windows エラーレポート	✓	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a
(4) ユーザダンプ	✓	✓	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a

次のページに続く

表 2.12 – 前のページからの続き

	type1	type2	type3	type4	type5	type6	proactdiag
(5) 診断プログラムレポート	✓	✓	n/a	n/a	n/a	n/a	✓
(6) レジストリ	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a	✓
(7) スクリプト	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a	✓
(8) ESM-PRO/AC、ESM-PRO/UPSC のログ	✓	✓	✓	n/a	n/a	n/a	n/a
(9) HA ログ	n/a	✓	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a
(10) ミラー統計情報	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a
(11) クラスタ統計情報	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓	✓
(12) システム統計情報	✓	✓	✓	n/a	n/a	✓	✓
(13) プロアクティブ診断ログ	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	n/a	✓

コマンドラインからは以下のように実行します。

実行例：収集タイプ **type2** でログ収集を行う場合。

```
# clplogcc -t type2
```

オプションを指定しない場合のログ収集タイプは **type1** です。

デフォルト収集情報

- CLUSTERPRO サーバの各モジュールログ
 - CLUSTERPRO サーバの各モジュールの属性情報 (dir)
 - Bin 配下
 - alert\bin、webmgr\bin 配下
 - %SystemRoot%\system32\drivers 配下
 - CLUSTERPRO X SingleServerSafe のバージョン情報
 - OS 情報
 - アップデートログ
 - ライセンス情報
 - 設定ファイル
 - ポリシーファイル
 - 共有メモリのダンプ
 - CLUSTERPRO のステータス (clpstat --local の実行結果)
 - ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
 - ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
 - IP ルーティングテーブル情報 (route print の実行結果)
 - プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)
 - ipconfig (ipconfig の実行結果)
 - ファイルの共有設定 (net share の実行結果)
 - セッション情報 (net session の実行結果)
 - Windows ファイアウォールの設定 (netsh の実行結果)
 - SNP (Scalable Networking Pack) の設定 (netsh の実行結果)
 - タスクスケジューラの設定 (schtasks の実行結果)
 - VSS のシャドウコピー領域の使用状況 (vssadmin list shadowstorage の実行結果)
 - Cluster WebUI の操作ログ (『メンテナンスガイド』 - 「保守情報」 - 「Cluster WebUI 操作ログ出力機能」を参照)
 - AWS 関連の情報
- 以下のコマンドの実行結果

- where aws
- aws --version
- aws configure list
- aws ec2 describe-network-interfaces
- aws ec2 describe-instance-attribute --attribute disableApiStop

イベントログ

- アプリケーションログ (Application.evtx)
- システムログ (System.evtx)
- セキュリティログ (Security.evtx)

Windows エラーレポート

- ***.wer

ユーザダンプ

- ***.*dmp

診断プログラムレポート

- msinfo32.exe コマンドの実行結果

レジストリ

- CLUSTERPRO サーバのレジストリ情報
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\Alert
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\MirrorList
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\RC
 - HKLM\SOFTWARE\NEC\CLUSTERPRO\VCOM
 - Diskfltr のレジストリ情報
- OS のレジストリ情報
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Disk
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Session Manager\DOS Devices
 - HKLM\SYSTEM\MountedDevices
 - HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Enum\SCSI

- HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Enum\STORAGE
- HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\symc8xx
- HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\FileSystem

スクリプト

Cluster WebUI で作成されたグループ起動/停止スクリプト

上記以外のユーザ定義スクリプトを指定した場合は、ログ収集の採取情報に含まれないため、別途採取する必要があります。

ESMPRO/AC、ESMPRO/UPSC のログ

acupslog.exe コマンドの実行により収集されるファイル

HA ログ

- システムリソース情報
- JVM モニタログ
- システムモニタログ

ミラー統計情報

このバージョンでは収集されません。

クラスタ統計情報

- クラスタ統計情報
 - perf\cluster 配下

システム統計情報

- システム統計情報
 - perf\system 配下

プロアクティブ診断ログ

- 追加ログ採取ツールの実行により収集されるファイル

2.7.2 ログファイルの出力先 (-o オプション)

- ファイル名は、「サーバ名-log.zip」で保存されます。
- ログファイルは zip で圧縮されているので、zip を解凍可能なアプリケーションを利用して解凍してください。

-o オプションを指定しない場合

インストールパスの tmp 配下にログが出力されます。

-o オプションを指定する場合

以下のようにコマンドを実行すると、指定したディレクトリ C:\tmp 配下にログが出力されます。

```
# clplogcc -o C:\tmp
```

2.7.3 収集するイベントログの種類の指定 (--evt オプション)

ログ収集で採取される情報に含まれるイベントログの種類を指定することができます。

[--evt] オプションに続けて、収集するイベントログを示す下記のいずれか、または、一つ以上の組み合わせを指定します。

イベントログの種類	指定文字
アプリケーションログ	app
システムログ	sys
セキュリティログ	sec

例) システムログとセキュリティログを収集する場合

```
# clplogcc --local --evt sys sec
```

- [--local] オプション指定時のみ有効です。

2.7.4 緊急 OS シャットダウン時の情報採取

CLUSTERPRO サービスが、内部ステータス異常による終了などで異常終了した場合に、OS のリソース情報を採取します。

採取する情報は以下です。

- 情報

- CLUSTERPRO サーバの一部のモジュールログ
- コマンド実行による情報
 - ホスト名、ドメイン名情報 (hostname の実行結果)
 - ネットワーク情報 (netstat の実行結果)
 - プロセス存在状況 (tasklist の実行結果)
 - ipconfig (ipconfig の実行結果)
 - ファイルの共有設定 (net share の実行結果)
 - セッション情報 (net session の実行結果)

この情報はログ収集のデフォルト収集情報として採取されるため、別途採取する必要はありません。

2.8 構成情報の反映、バックアップを実行する (clpcfctrl コマンド)

2.8.1 構成情報を反映する (clpcfctrl --push)

構成情報をサーバに反映します。

コマンドライン

```
clpcfctrl --push [-w] [-x <path>] [-p <portnumber>] [--nocheck]
```

説明

Cluster WebUI で作成した構成情報をサーバに反映します。

パラメータ

--push

反映時に指定します。

省略できません。

-x

指定したディレクトリにある構成情報を反映する場合に指定します。

-w

構成情報ファイルの文字コードが SJIS であることを示します。

通常は本オプションを省略可能です。

-p

データ転送ポートのポート番号を指定します。

省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。

--nocheck

変更を反映させるために必要な操作のチェックを行わずに配信します。配信した構成情報を反映させるためには必要に応じた操作を手動で実行する必要があります。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

Cluster WebUI でエクスポートしたクラスタ構成情報ファイルを、`clpcfctrl --push` コマンドでクラスタサーバーへ配信するには以下の手順に従ってください。

1. Cluster WebUI を起動し、[設定モード] に切り替えます。
2. 必要に応じて、Cluster WebUI からクラスタ構成を変更します。
3. Cluster WebUI から、[設定のエクスポート] を選択し、任意のフォルダへクラスタ構成情報ファイル (zip 形式) を保存します。
4. Cluster WebUI のエクスポートしたクラスタ構成情報ファイル (zip 形式) を、クラスタサーバーから参照可能な任意のフォルダに展開します。
5. クラスタ内のいずれかのクラスタサーバーのコマンドプロンプトから、`clpcfctrl --push` を実行します。

注意事項

本コマンドは Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

クラスタから一部サーバを削除した構成情報をアップロードする際は、削除するサーバの CLUSTERPRO サーバをアンインストールしてください。

構成情報反映時に、現在の構成情報と反映予定の構成情報を比較します。

構成内容に変更がある場合は、以下のメッセージが出力されます。メッセージの指示に従い、サービス操作 / グループ操作を行ってから、再度本コマンドを実行してください。

メッセージ	対処法
Please stop CLUSTERPRO Server.	サーバを停止してください。
Please suspend CLUSTERPRO Server.	サーバをサスペンドしてください。
Please stop the following groups.	設定を変更したグループを停止してください。
Reboot of a cluster is necessary to reflect setting.	設定を反映するには、クラスタシャットダウン・リブートを実行してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Web Alert service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Web Alert サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Manager service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Manager サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Information Base service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Information Base サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO API service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO API サービスを再起動してください。
To apply the changes you made, restart the CLUSTERPRO Node Manager service.	設定を反映するには、CLUSTERPRO Node Manager サービスを再起動してください。

次のページに続く

表 2.14 – 前のページからの続き

メッセージ	対処法
Start of a cluster is necessary to reflect setting.	初回構築時のメッセージです。クラスタ開始を実行してください。

--nocheck オプションは保守手順などの特別な用途においてのみ使用します。通常の操作では使用しないでください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	[--push] を指定しているか確認してください。
Invalid host name. Server specified by -h option is not included in the configuration data	[-h] で指定したサーバが構成情報に含まれていません。指定したサーバ名または IP アドレスが正しいか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.15 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Failed to connect to trnsv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Failed to get the list of node. Check if the server name or ip addresses are correct.	構成情報のサーバ名と IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。
File delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Multi file delivery failed. Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to deliver the configuration data. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。 サーバ起動後、再度コマンドを実行してください。
Failed to upload the configuration file. Check if the other server is active and run the command again.	構成情報の配信に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
Canceled to deliver the configuration file since it failed to connect to one or more server. If you want to deliver the configuration file to servers that can be connected, run the command again with "--force" option.	構成情報の配信を中止しました。接続に失敗したサーバがあります。もし接続可能なサーバのみ構成情報を配信したい場合は、[--force] オプションを用いて再度コマンドを実行してください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The directory does not exist.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
This is not a directory.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
The source file does not exist.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。

次のページに続く

表 2.15 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The source file is a directory.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
The source directory does not exist.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
The source file is not a directory.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to make a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to open the file.	クラスタ構成情報のパスが正しいか確認してください。
Failed to read the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to copy the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to create the mutex.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to check server property. Check if the server name or ip addresses are correct .	構成情報のサーバ名と IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。
Please stop the following resources.	設定を変更したりリソースを停止してください。

2.8.2 構成情報をバックアップする (clpcfctrl --pull)

構成情報をバックアップします。

コマンドライン

```
clpcfctrl --pull [-w] [-x <path>] [-p <portnumber>]
```

説明

Cluster WebUI で使用するために構成情報をバックアップします。

パラメータ

--pull

バックアップ時に指定します。

省略できません。

-x

指定したディレクトリに構成情報をバックアップします。

-w

構成情報を文字コード SJIS で保存します。

-p

データ転送ポートのポート番号を指定します。

省略時は初期値を使用します。通常は指定の必要はありません。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

clpcfctrl --pull コマンドで取得したクラスタ構成情報ファイルを、Cluster WebUI でクラスタサーバーへ配信するには以下の手順に従ってください。

1. clpcfctrl --pull コマンドを実行し、任意のフォルダへクラスタ構成情報ファイル (zip 形式) を保存します。
2. zip を解凍し clp.conf と scripts を選択し、zip 形式で圧縮したファイルを作成します (ファイル名は任意)。

3. Cluster WebUI の設定モードから [設定のインポート] をクリックし、保存したファイルを読み込みます。
4. 必要に応じて、Cluster WebUI からクラスタ構成を変更し、[設定の反映] をクリックする。

注意事項

本コマンドは Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
This command is already run.	すでに起動されています。
Invalid option.	オプションが不正です。 オプションを確認してください。
Invalid mode. Check if --push or --pull option is specified.	[--pull] を指定しているか確認してください。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the configuration file. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to load the all.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to load the cfctrl.pol file. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to get the install path. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to initialize the trncl library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to connect to trnsrv. Check if the other server is active.	サーバとの接続に失敗しました。他のサーバが起動しているか確認してください。
The directory "work" is not found. Reinstall the cluster.	CLUSTERPRO サーバを再インストールしてください。
Failed to make a working directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
This is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source directory does not exist.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The source file is not a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (EUC to SJIS).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the character code set (SJIS to EUC).	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to allocate memory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to change the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to make a directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the directory.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to remove the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to open the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to read the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to write the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to copy the file.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to create the mutex.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 2.16 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.9 タイムアウトを一時調整する (clptoratio コマンド)

現在のタイムアウト倍率の延長、表示を行います。

コマンドライン

```
clptoratio -r <ratio> -t <time>
```

```
clptoratio -i
```

```
clptoratio -s
```

説明

以下の各種タイムアウト値を一時的に延長します。

- モニタリソース
- アラート同期サービス
- WebManager サービス

現在のタイムアウト倍率を表示します。

パラメータ

-r ratio

タイムアウト倍率を指定します。1 以上の整数値で設定してください。最大タイムアウト倍率は 10000 倍です。

「1」を指定した場合、-i オプションと同様に、変更したタイムアウト倍率を元に戻すことができます。

-t time

延長期間を指定します。

分 m、時間 h、日 d が指定できます。最大延長期間は 30 日です。

例) 2m、3h、4d

-i

変更したタイムアウト倍率を元に戻します。

-s

現在のタイムアウト倍率を参照します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

サーバのシャットダウンを実行すると、設定したタイムアウト倍率は無効になります。

-s オプションで参照できるのは、現在のタイムアウト倍率のみです。延長期間の残り時間などは参照できません。

状態表示コマンドを用いて、元のタイムアウト値を参照できます。

モニタリソースタイムアウト

```
# clpstat --mon モニタリソース名 --detail
```

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

CLUSTERPRO サービスが起動した状態で実行してください。

タイムアウト倍率を設定する場合、延長期間の指定は必ず行ってください。しかし、タイムアウト倍率指定に「1」を指定した場合は、延長期間を指定することはできません。

延長期間指定に、「2m3h」などの組み合わせはできません。

実行例

例 1:タイムアウト倍率を 3 日間 2 倍にする場合

```
# clptoratio -r 2 -t 3d
```

例 2:タイムアウト倍率を元に戻す場合

```
# clptoratio -i
```

例 3:現在のタイムアウト倍率を参照する場合

```
# clptoratio -s
```

```
present toratio : 2
```

現在のタイムアウト倍率は 2 で設定されていることが分かります。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid configuration file. Create valid cluster configuration data.	Cluster WebUI で正しいクラスタ構成情報を作成してください。

次のページに続く

表 2.17 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Specify a number in a valid range.	正しい範囲で数字を指定してください。
Specify a correct number.	正しい数字で指定してください。
Scale factor must be specified by integer value of 1 or more.	倍率は 1 以上の整数値で指定してください。
Specify scale factor in a range less than the maximum scale factor.	最大倍率を超えない範囲で倍率を指定してください。
Set the correct extension period. Ex) 2m, 3h, 4d	正しい延長期間の設定をしてください。
Set the extension period in a range less than the maximum extension period.	最大延長期間を超えない範囲で延長期間を設定してください。
Could not connect to the server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Invalid parameter.	コマンドの引数に指定した値に不正な値が設定されている可能性があります。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
Processing failed on some servers. Check the status of failed servers.	処理に失敗したサーバが存在します。 クラスタ内のサーバの状態を確認してください。 クラスタ内の全てのサーバが起動した状態で実行してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.10 ログレベル/サイズを変更する (clplogcf コマンド)

ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定の変更、表示を行います。

コマンドライン

```
clplogcf -t <type> -l <level> -s <size>
```

説明

ログレベル、ログ出力ファイルサイズの設定を変更します。

現在の設定値を表示します。

パラメータ

-t

設定を変更するモジュールタイプを指定します。

指定可能なタイプには、オプション指定なしで実行した際に出力される情報 (TYPE 列) を参照してください。

-l

ログレベルを指定します。

指定可能なログレベルは以下のいずれかです。

1、2、4、8、16、32

数値が大きいほど詳細なログが出力されます。

-s

ログを出力するファイルのサイズを指定します。

単位は byte です。

なし

現在設定されている全情報を表示します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

備考

CLUSTERPRO X SingleServerSafe が出力するログは、各タイプで 2 つのログファイルを使用します。このため -s で指定したサイズの 2 倍のディスク容量が必要です。

注意事項

本コマンドは Administrator 権限をもつユーザで実行してください。

本コマンドの実行には CLUSTERPRO Event サービスが動作している必要があります。

サーバを再起動すると変更した設定は元に戻ります。

実行例

例 1:pm のログレベルを変更する場合

```
# clplogcf -t pm -l 8
```

例 2:pm のログレベル、ログファイルサイズを参照する場合

```
# clplogcf -t pm
```

```
TYPE, LEVEL, SIZE
```

```
pm, 8, 1000000
```

例 3:現在の設定値を表示する場合

```
# clplogcf
```

```
TYPE, LEVEL, SIZE
```

```
trnsv, 4, 1000000
```

```
xml, 4, 1000000
```

```
logcf, 4, 1000000
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as administrator.	Administrator ユーザで実行してください。
Invalid option.	オプションが不正です。オプションを確認してください。
Failed to change configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが起動されていない可能性があります。
Invalid level.	指定したレベルが不正です。
Invalid size.	指定したサイズが不正です。
Failed to initialize the xml library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to print current configuration. Check if the event service is running.	CLUSTERPRO Event サービスが起動されていない可能性があります。

2.11 ライセンスを管理する (clplcnsnc コマンド)

ライセンスの管理を行います。

コマンドライン

```
clplcnsnc -i [licensefile...]  
clplcnsnc -l [-a]  
clplcnsnc -d serialno [-q]  
clplcnsnc -d -t [-q]  
clplcnsnc -d -a [-q]  
clplcnsnc --reregister licensefile...
```

説明

本製品の製品版・試用版ライセンスの登録、参照、削除を行います。

パラメータ

-i [licensefile...]

ライセンスファイルを指定すると、そのファイルよりライセンス情報を取得し、登録します。ライセンスファイルは複数指定することができます。ワイルドカードの指定も可能です。指定しなければ、対話形式によりライセンス情報を入力し登録します。

-l [-a]

登録されているライセンスを参照します。表示する項目を以下に示します。

項目名	説明
Serial No	シリアルナンバー (製品版のみ)
User name	ユーザ名 (試用版のみ)
Key	ライセンスキー
Licensed Number of CPU	ライセンス許諾数 (CPU 単位)
Licensed Number of Computers	ライセンス許諾数 (ノード単位)
Start date	有効期間開始日 *1*2
End date	有効期間終了日 *1*2

- Status

ライセンスの状態

*1 期限付きライセンスの場合に表示します。

*2 試用版ライセンスの場合に表示します。

状態	説明
valid	有効
invalid	無効
unknown	不明
inactive	有効期間開始前*1*2
expired	有効期間終了後*1*2

-a オプションを指定しない場合は、ライセンスの状態が invalid, unknown, expired であるライセンスは表示しません。

-a オプションを指定した場合は、ライセンスの状態に関わらず、全てのライセンスを表示します。

-d <param>

- <param>

- serialno

指定したシリアルナンバーのライセンスを削除します。

- -t

登録されている全ての試用版ライセンスを削除します。

- -a

登録されている全てのライセンスを削除します。

-q

ライセンスを削除する時の確認メッセージを表示せずに削除します。-d オプションと一緒に指定してください。

--reregister licensefile...

期限付きライセンスを再登録します。通常、このオプションでコマンドを実行する必要はありません。

戻り値

0	正常終了
1	キャンセル
3	初期化エラー
5	オプション不正
8	その他内部エラー

実行例

• 登録

– 対話形式

```
# clplcns -i
```

製品版、製品版 (期限付き)

製品区分選択

```
Selection of License Version
  1. Product Version
  2. Trial Version
  e. Exit
Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...
```

シリアルナンバー入力

```
Enter serial number [ Ex. XXXXXXXX000000 ] ...
```

ライセンスキー入力

```
Enter license key
[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX ] ...
```

試用版

製品区分選択

```
Selection of License Version
  1. Product Version
  2. Trial Version
  e. Exit
Select License Version. [1, 2, or e (default:1)] ...
```

ユーザ名入力

```
Enter user name [ 1 to 63byte ] ...
```

ライセンスキー入力

```
Enter license key
[ Ex. XXXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX-XXXXXXX ] ...
```

– ライセンスファイル指定

```
# clplcns -i /tmp/cpulcns.key
```

- 参照

```
# clplcns -l
```

製品版

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >

Seq... 1
Serial No..... AAAAAAAAA000001
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
Licensed Number of CPU... 2
Status... valid

Seq... 2
Serial No..... AAAAAAAAA000002
Key..... E1234567-F1234567-G1234567-H1234567
Licensed Number of Computers... 1
Status... valid
```

製品版 (期限付き)

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <PRODUCT> >

Seq... 1
Serial No..... AAAAAAAAA000001
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
Start date..... 2018/01/01
End date..... 2018/01/31
Status..... valid

Seq... 2
Serial No..... AAAAAAAAA000002
Key..... E1234567-F1234567-G1234567-H1234567
Status..... inactive
```

試用版

```
< CLUSTERPRO X SingleServerSafe <TRIAL> >

Seq... 1
Key..... A1234567-B1234567-C1234567-D1234567
User name... NEC
Start date..... 2018/01/01
End date..... 2018/02/28
Status..... valid
```


- 削除

```
# clplcns -d AAAAAAAAA000001 -q
```

- 削除

```
# clplcns -d -t -q
```

- 削除

```
# clplcns -d -a
```

削除確認

```
Are you sure to remove the license? [y/n] ...
```

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

-d オプション利用時に -a オプションを併用した場合、全ての試用版ライセンスおよび製品版ライセンスが削除されます。試用版ライセンスのみ削除する場合は -t オプションを併用してください。製品版ライセンスも含めて削除してしまった場合は製品版ライセンスの再登録をしてください。

ライセンス参照時は、あるライセンスに複数のライセンスが含まれている場合、それぞれ個別に表示されます。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Processed license num (success: %d, error: %d).	処理したライセンス数（成功: %d, 失敗: %d） 失敗が 0 でない場合は、何らかの理由でライセンス処理が失敗しています。 ライセンス情報が正しいか確認してください。
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Command failed.	コマンドは失敗しました。
Log in as administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。

次のページに続く

表 2.21 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
The command is already run.	コマンドは、既に実行されています。
The license is not registered.	ライセンスが未登録状態です。
Could not opened the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
Could not read the license file. Check if the license file exists on the specified path.	ライセンスファイルへの I/O ができません。ライセンスファイルが指定されたパスに存在するか確認してください。
The field format of the license file is invalid. The license file may be corrupted. Check the destination from where the file is sent.	ライセンスファイルのフィールド形式が不正です。ライセンスファイルが壊れている可能性があります。ファイルの送付元に確認してください。
The cluster configuration data may be invalid or not registered.	クラスタ構成情報が不正または、未登録状態が考えられます。確認してください。
Failed to terminate the library. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Failed to register the license. Check if the entered license information is correct.	入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to open the license. Check if the entered license information is correct.	入力したライセンス情報が正しいか確認してください。
Failed to remove the license.	ライセンスの削除に失敗しました。パラメータ誤り、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
This license is already registered.	このライセンスはすでに登録されています。 登録されているライセンスを確認してください。
This license is already activated.	このライセンスはすでに使用されています。 登録されているライセンスを確認してください。
This license is unavailable for this product.	このライセンスはこの製品では使用できません。 ライセンスを確認してください。

次のページに続く

表 2.21 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
The maximum number of licenses was reached.	登録可能なライセンスの最大数に達しました。 期限切れのライセンスを削除してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.12 メッセージを出力する (clplogcmd コマンド)

指定したメッセージを アラートログに登録するコマンドです。

コマンドライン

```
clplogcmd -m message [--alert] [--mail] [-i ID] [-l level]
```

注釈: 通常の構築や運用ではこのコマンドの実行は不要です。スクリプトリソースのスクリプトに記述して使用するコマンドです。

説明

スクリプトリソースのスクリプトに記述し、任意のメッセージを出力先に出力します。

メッセージは以下の形式で出力されます。

`[ID] message`

パラメータ

-m message

出力するメッセージを 指定します。省略できません。メッセージ の最大サイズは 498 バイトです。

メッセージには英語、数字、記号^{*3} が使用可能です。

--alert

--mail

^{*3} メッセージに記号を含む場合の注意点は以下のとおりです。

- "" で囲む必要がある記号

`& | < >`

(例 "&" をメッセージに指定すると、& が出力されます。)

- \ を前につける必要がある記号

`\`

(例 \ をメッセージに指定すると、\ が出力されます。)

- メッセージにスペースを含む場合、"" で囲む必要があります。

alert、mail の中から出力先を指定します (複数指定可能です)。

このパラメータは省略可能です。省略時には alert が出力先になります。

出力先についての詳細は『CLUSTERPRO X メンテナンスガイド』の「保守情報」の「CLUSTERPRO のディレクトリ構成」を参照してください。

-i ID

メッセージ ID を指定します。

このパラメータは省略可能です。省略時には ID に 1 が設定されます。

-l level

出力するアラートのレベルです。

ERR、WARN、INFO のいずれかを指定します。このレベルによって Cluster WebUI でのアラートログのアイコンを指定します。

このパラメータは省略可能です。省略時には level に INFO が設定されます。

詳細はオンラインマニュアルを参照してください。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

-i オプションの仕様は Linux 版とは異なります。Windows 版ではアラートに出力されるイベント ID は固定で、変更することはできません。

実行例

例 1: メッセージ、メッセージ ID、レベルを指定する場合

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、アラートログにメッセージを出力します。

```
clplogcmd -m test1 -i 100 -l ERR
```

例 2: メッセージ、出力先、イベント ID、レベルを指定する場合 (出力先 mail)

スクリプトリソースのスクリプトに下記を記述した場合、Cluster WebUI のクラスタプロパティで設定したメールアドレスにメッセージが送信されます。メールアドレスの設定についての詳細は『CLUSTERPRO X リファレンスガイド』の「パラメータの詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「アラートサービスタブ」を参照してください。

```
clplogcmd -m test2 --mail -i 100 -l ERR
```

mail の送信先には、下記の内容のメールが送信されます。

```
Message:test2  
Type: logcmd  
ID: 100  
Host: server1  
Date: 2019/04/10 10:00:00
```

2.13 モニタリソースを制御する (clpmonctrl コマンド)

モニタリソースの制御を行います。

コマンドライン

```
clpmonctrl -s [-m resource name] [-w wait time]  
clpmonctrl -r [-m resource name] [-w wait time]  
clpmonctrl -c [-m resource name]  
clpmonctrl -v [-m resource name]  
clpmonctrl -e -m resource_name  
clpmonctrl -n [-m resource_name]
```

説明

モニタリソースの一時停止/再開を行います。

パラメータ

-s, --suspend

監視を一時停止します。

-r, --resume

監視を再開します。

-c, --clear

回復動作の回数カウンタをリセットします。

-v, --view

回復動作の回数カウンタを表示します。

-e, --error

障害検証機能を有効にします。必ず -m オプションで監視リソース名を指定してください。

-n, --normal

障害検証機能を無効にします。-m オプションで監視リソース名を指定した場合は、そのリソースのみが対象となります。-m オプションを省略した場合は、全監視リソースが対象となります。

-m, --monitor

制御するモニタリソースを指定します。

省略可能で、省略時は全てのモニタリソースに対して制御を行います。

-w, --wait

モニタリソース単位で監視制御を待合わせます。(秒)

省略可能で、省略時は 5 秒が設定されます。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	オプション不正
3	初期化エラー
4	構成情報不正
5	モニタリソース未登録
6	指定モニタリソース不正
10	CLUSTERPRO 未起動状態
11	CLUSTERPRO サービスサスペンド状態
90	監視制御待ちタイムアウト
128	二重起動
255	その他内部エラー

備考

既に一時停止状態にあるモニタリソースに一時停止を行った場合や既に起動済状態にあるモニタリソースに再開を行った場合は、本コマンドはエラー終了し、モニタリソース状態は変更しません。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

モニタリソースの状態は、状態表示コマンドまたは Cluster WebUI で確認してください。

clpstat コマンドまたは、Cluster WebUI でモニタリソースの状態が 起動済 または、一時停止 であることを確認後、実行してください。

モニタリソースの回復動作が下記のように設定されている場合、-v オプションで表示される "FinalAction Count" には「最終動作前スクリプト」の実行回数が表示されます。

- 最終動作前にスクリプトを実行する：有効
- 最終動作： "何もしない"

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
You are not authorized to run the command. Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
Monitor resource is not registered.	モニタリソースが登録されていません。
Specified monitor resource is not registered. Check the cluster configuration information.	指定されたモニタリソースは、登録されていません。 Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
The cluster has been stopped. Check the active status of the cluster service by using the command such as ps command.	クラスタは、停止状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動状態を確認してください。
The cluster has been suspended. The cluster service has been suspended. Check activation status of the cluster service by using a command such as the ps command.	CLUSTERPRO サービスは、サスペンド状態です。管理ツールの [サービス] で CLUSTERPRO Server サービスの起動状態を確認してください。
Waiting for synchronization of the cluster... The cluster is waiting for synchronization. Wait for a while and try again.	クラスタは、同期待ち状態です。 クラスタ同期待ち完了後、再度実行してください。
Monitor %1 was unregistered, ignored. The specified monitor resources %1 is not registered, but continues processing. Check the cluster configuration data.	指定されたモニタリソース中に登録されていないモニタリソースがありますが、無視して処理を継続します。 Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。 %1 : モニタリソース名

次のページに続く

表 2.22 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
The command is already executed. Check the execution state by using the "ps" command or some other command.	コマンドは、既に実行されています。 タスクマネージャなどで実行状態を確認してください。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

-m オプションに指定可能なモニタリソースタイプ

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
appliw	✓	✓	✓
diskw	✓	✓	✓
ipw	✓	✓	✓
miiw	✓	✓	✓
mtw	✓	✓	✓
servicew	✓	✓	✓
genw	✓	✓	✓
mrw	✓	✓	n/a
db2w	✓	✓	✓
ftpw	✓	✓	✓
httpw	✓	✓	✓
imap4w	✓	✓	✓
odbcw	✓	✓	✓
oraclew	✓	✓	✓
pop3w	✓	✓	✓
psqlw	✓	✓	✓
smtpw	✓	✓	✓
sqlserverw	✓	✓	✓
tuxw	✓	✓	✓
wasw	✓	✓	✓
wlsw	✓	✓	✓
otxw	✓	✓	✓

次のページに続く

表 2.23 – 前のページからの続き

タイプ	監視の一時停止/再開	回復動作の 回数カウンタ/リセット	障害検証機能の 有効化/無効化
jraw	✓	✓	✓
sraw	✓	✓	✓
psrw	✓	✓	✓
userw	✓	✓	✓
psw	✓	✓	✓

2.14 グループリソースを制御する (clprsc コマンド)

グループリソースの制御を行います。

コマンドライン

```
clprsc -s resource_name [-f] [--apito timeout]
```

```
clprsc -t resource_name [-f] [--apito timeout]
```

説明

グループリソースを起動 / 停止します。

パラメータ

-s

グループリソースを起動します。

-t

グループリソースを停止します。

-f

グループリソース起動時は、指定したグループリソースが依存する全グループリソースを起動します。
グループリソース停止時は、指定したグループリソースに依存している全グループリソースを停止します。

--apito

グループリソースの起動、停止を待ち合わせる時間（内部通信タイムアウト）を秒単位で指定します。
1-9999 の値が指定できます。

[--apito] オプションを指定しない場合は、3600 秒待ち合わせを行います。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

グループリソースの状態は、状態表示コマンドまたは Cluster WebUI で確認してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid cluster configuration data. Check the cluster configuration information.	クラスタ構成情報が不正です。Cluster WebUI でクラスタ構成情報を確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not connect server. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server status. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Server is not active. Check if the cluster service is active.	CLUSTERPRO サービスが起動しているか確認してください。
Invalid server name. Specify a valid server name in the cluster.	クラスタ内の正しいサーバ名を指定してください。
Connection was lost. Check if there is a server where the cluster service is stopped in the cluster.	クラスタ内に CLUSTERPRO サービスが停止しているサーバがないか確認してください。
Internal communication timeout has occurred in the cluster server. If it occurs frequently, set the longer timeout.	CLUSTERPRO の内部通信でタイムアウトが発生しています。 頻出するようであれば、内部通信タイムアウトを長めに設定してください。
The group resource is busy. Try again later.	グループリソースが起動処理中、もしくは停止処理中のため、しばらく待ってから実行してください。
An error occurred on group resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Could not start the group resource. Try it again after the other server is started, or after the Wait Synchronization time is timed out.	他サーバが起動するのを待つか、起動待ち時間がタイムアウトするのを待って、グループリソースを起動させてください。
No operable group resource exists in the server.	処理を要求したサーバに処理可能なグループリソースが存在するか確認してください。
The group resource has already been started on the local server.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。

次のページに続く

表 2.24 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
The group resource has already been started on the other server. To start the group resource on the local server, stop the group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。 グループリソースをローカルサーバで起動するには、グループを停止してください。
The group resource has already been stopped.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to start group resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Failed to stop resource. Check the status of group resource.	Cluster WebUI や、[clpstat] コマンドでグループリソースの状態を確認してください。
Depending resource is not offline. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が停止済でないため、グループリソースを停止できません。依存しているグループリソースを停止するか、[-f] オプションを指定してください。
Depending resource is not online. Check the status of resource.	依存しているグループリソースの状態が起動済でないため、グループリソースを起動できません。依存しているグループリソースを起動するか、[-f] オプションを指定してください。
Invalid group resource name. Specify a valid group resource name in the cluster.	グループリソースが登録されていません。
Server is isolated.	サーバが保留 (ダウン後再起動) 状態です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Server is not in a condition to start resource. Critical monitor error is detected.	Cluster WebUI や、clpstat コマンドでグループリソースの状態を確認してください。 グループリソースを起動しようとしたサーバで「フェイルオーバー先サーバの除外に使用するモニタリソース」に含まれるモニタの異常が検出されています。

2.15 クラスタサーバに処理を要求する (clprexec コマンド)

CLUSTERPRO がインストールされた他サーバへ処理実行を要求します。

コマンドライン

```
clprexec --script script_file -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]  
clprexec --notice {[mrw_name] | [-k category[. keyword]]} -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o  
logfile_path]  
clprexec --clear {[mrw_name] | [-k category[. keyword]]} -h IP [-p port_number] [-w timeout] [-o logfile_path]
```

説明

指定した処理実行要求を他クラスタのサーバに発行します。

パラメータ

--script *script_name*

スクリプト実行要求を行います。

script_name には、実行するスクリプト（シェルスクリプトや実行可能ファイル等）のファイル名を指定します。

スクリプトは **-h** で指定した各サーバの CLUSTERPRO インストールディレクトリ配下の *worktrnreq* ディレクトリ配下に作成しておく必要があります。

--notice

CLUSTERPRO サーバへ異常発生通知を行います。

mrw_name には外部連携監視リソース名を指定してください。

モニタリソース名を省略する場合、**-k** オプションで外部連携監視リソースの監視タイプ、監視対象を指定してください。

--clear

外部連携監視リソースのステータスを "異常" から "正常" へ変更する要求を行います。

mrw_name には外部連携監視リソース名を指定してください。

モニタリソース名を省略する場合、**-k** オプションで外部連携監視リソースの監視タイプ、監視対象を指定してください。

-h *IP Address*

処理要求発行先の CLUSTERPRO サーバの IP アドレスを指定してください。

カンマ区切りで複数指定可能、指定可能な IP アドレス数は 32 個です。

※ 本オプションを省略する場合、処理要求発行先は自サーバになります。

-k category[.keyword]

[--notice] または [--clear] オプションを指定する場合、[category] に外部連携監視リソースに設定しているカテゴリを指定してください。

外部連携監視リソースのキーワードを指定する場合は、[category] のあとにピリオド区切りで指定してください。

-p port_number

ポート番号を指定します。

port_number に処理要求発行先サーバに設定されているデータ転送ポート番号を指定してください。

本オプションを省略した場合、デフォルト 29002 を使用します。

-o logfile_path

logfile_path には、本コマンドの詳細ログを出力するファイル path を指定します。

ファイルにはコマンド 1 回分のログが保存されます。

※ CLUSTERPRO がインストールされていないサーバで本オプションを指定しない場合、標準出力のみとなります。

-w timeout

コマンドのタイムアウトを指定します。指定しない場合は、デフォルト 180 秒です。

5～999 まで指定可能です。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

[clprexec] コマンドを使って異常発生通知を発行する場合、CLUSTERPRO サーバ側で実行させたい異常時動作を設定した外部連携監視リソースを登録/起動しておく必要がある。

-h オプションで指定する IP アドレスを持つサーバは、下記の条件を満たす必要がある。

- CLUSTERPRO X 3.0 以降がインストールされていること

- CLUSTERPRO 起動していること
(--script オプション以外の場合)

- mrw が設定 / 起動されていること
(--notice, --clear オプションの場合)

[クライアント IP アドレスによる接続制限] が有効の場合、[clprexec] コマンドを実行する装置の IP アドレスを追加しておくこと。

[クライアント IP アドレスによる接続制限] は、『設定ガイド』の「その他の設定の詳細」の「クラスタプロパティ」の「WebManager タブ」を参照してください。

実行例

例 1: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して、スクリプト (script1.sh) 実行要求を発行する場合

```
# clprexec --script script1.bat -h 10.0.0.1
```

例 2: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して異常発生通知を発行する

※ mrw1 設定 監視タイプ: earthquake、監視対象: scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合

```
# clprexec --notice mrw1 -h 10.0.0.1 -w 30 -p /tmp/clprexec/ lprexec.  
↪log
```

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指定する場合

```
# clprexec --notice -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3 -w 30 -p /tmp/  
↪clprexec/clprexec.log
```

例 3: CLUSTERPRO サーバ 1 (10.0.0.1) に対して mrw1 のモニタステータス変更要求を発行する

※ mrwl の設定 監視タイプ : earthquake、監視対象 : scale3

- 外部連携監視リソース名を指定する場合

```
# clprexec --clear mrwl -h 10.0.0.1
```

- 外部連携監視リソースに設定されている監視タイプと監視対象を指定する場合

```
# clprexec --clear -h 10.0.0.1 -k earthquake,scale3
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Success	-
Invalid option.	コマンドの引数を確認してください。
Could not connect to the data transfer servers. Check if the servers have started up.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Could not connect to all data transfer server.	指定した IP アドレスが正しいかまたは IP アドレスを持つサーバが起動しているか確認してください。
Command timeout.	指定した IP アドレスを持つサーバで処理が完了しているか確認してください。
All servers are busy.Check if this command is already run.	既に本コマンドが実行されている可能性があります。確認してください。
Group (%s) is offline.	処理を要求したサーバで、グループが起動しているか確認してください。
Group that specified resource(%s) belongs to is offline.	処理を要求したサーバで、指定したリソースを含むグループが起動しているか確認してください。
Specified script(%s) does not exist.	指定したスクリプトが存在しません。
%s %s : Specified resource(%s) is not exist.	指定したリソースもしくは監視リソースが存在しません。
%s %s : Specified resource(Category:%s, Keyword:%s) is not exist.	指定したリソースもしくは監視リソースが存在しません。
Specified group(%s) does not exist.	指定したグループが存在しません。
This server is not permitted to execute clprexec.	Cluster WebUI 接続制限のクライアント IP アドレス一覧にコマンドを実行するサーバの IP アドレスが登録されているか確認してください。

次のページに続く

表 2.25 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
%s failed in execute.	要求発行先の CLUSTERPRO サーバの状態を 確認 してください。

2.16 再起動回数を制御する (clpregctrl コマンド)

再起動回数制限の制御を行います。

コマンドライン

```
clpregctrl --get
clpregctrl -g
clpregctrl --clear -t type -r registry
clpregctrl -c -t type -r registry
```

説明

サーバ上で再起動回数の表示/初期化を行います。

パラメータ

-g, --get

再起動回数情報を表示します。

-c, --clear

再起動回数を初期化します。

-t type

再起動回数を初期化するタイプを指定します。指定可能なタイプは rc または rm です。

-r registry

レジストリ名を指定します。指定可能なレジストリ名は haltcount です。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	二重起動
3	オプション不正
4	構成情報不正
10~17	内部エラー
20~22	再起動回数情報取得失敗
90	メモリアロケート失敗

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

実行例

- 再起動回数情報表示

```
# clpregctrl -g
*****
-----
type : rc
registry : haltcount
comment : halt count
kind : int
value : 0
default : 0
-----
type : rm
registry : haltcount
comment : halt count
kind : int
value : 3
default : 0
*****
success.(code:0)

#
```

例 1、2 は、再起動回数を初期化します。

例 1: グループリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rc -r haltcount
success.(code:0)
#
```

例 2: モニタリソース異常による再起動回数を初期化する場合

```
# clpregctrl -c -t rm -r haltcount
success.(code:0)
#
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Command succeeded.	コマンドは成功しました。
Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
The command is already executed.	コマンドは、既に実行されています。
Invalid option.	オプションが不正です。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.17 プロセスの健全性を確認する (clphealthchk コマンド)

プロセスの健全性を確認します。

コマンドライン

```
clphealthchk [-t pm | -t rc | -t rm | -t nm | -h]
```

注釈: 本コマンドは、単一サーバ上でプロセスの健全性を確認します。健全性を確認したいサーバ上で実行する必要があります。

説明

単一サーバ上でのプロセスの健全性を確認します。

パラメータ

なし

clppm/clprc/clprm/clpnm の健全性を確認します。

-t <param>

- <param>

- pm

- clppm の健全性を確認します。

- rc

- clprc の健全性を確認します。

- rm

- clprm の健全性を確認します。

- nm

- clpnm の健全性を確認します。

-h

Usage を出力します。

戻り値

0	正常終了
1	実行権限不正
2	二重起動
3	初期化エラー
4	オプション不正
10	プロセスストール監視機能未設定
11	クラスタ未起動状態（クラスタ起動待ち合わせ中、クラスタ停止処理中を含む）
12	クラスタサスペンド状態
100	健全性情報が一定時間更新されていないプロセスが存在する -t オプション指定時は、指定プロセスの健全性情報が一定時間更新されていない
255	その他内部エラー

実行例

例 1: 健全な場合

```
# clphealthchk
pm OK
rc OK
rm OK
nm OK
```

例 2: clprc がストールしている場合

```
# clphealthchk
pm OK
rc NG
rm OK
nm OK
# clphealthchk -t rc
rc NG
```

例 3: クラスタが停止している場合

```
# clphealthchk
The cluster has been stopped
```

備考

クラスタが停止している場合や、サスペンドしている場合にはプロセスは停止しています。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	コマンドの実行権がありません。Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Initialization error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
The function of process stall monitor is disabled.	プロセスストール監視機能が有効ではありません。
The cluster has been stopped.	クラスタは停止状態です。
The cluster has been suspended.	クラスタはサスペンド状態です。
This command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.18 クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定する (clpstdncnf コマンド)

クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定します。

コマンドライン

```
clpstdncnf -e [time]
```

```
clpstdncnf -d
```

```
clpstdncnf -v
```

説明

クラスタ外からの操作による OS シャットダウン時の動作を設定します。

パラメータ

-e [*time*]

OS シャットダウンが実行された際に、*time* で指定した時間だけ、クラスタサービスの停止を待ち合わせるようになります。

time には、分単位で 1-1440 の値が指定できます。

初回実行時は必ず *time* を指定してください。

2 回目以降は *time* の指定を省略可能です。省略した場合は、現在の設定値を使用します。

-d

OS シャットダウンが実行された際に、クラスタサービスの停止を待ち合わせないようにします。

-v

設定内容を確認します。

戻り値

0	正常終了
0 以外	異常終了

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

クラウド環境などの仮想化環境において、仮想化基盤側からゲスト OS のシャットダウンを実行した場合、ゲスト OS のシャットダウンに時間を要すると、仮想化基盤側から強制的に仮想マシンの電源を停止することがあります。

実行例

例 1: クラスタサービスの停止を最大で 30 分待ち合わせる場合

```
# clpstdncnf -e 30
```

```
Command succeeded.
```

```
# clpstdncnf -v
```

```
Mode : wait
```

```
Timeout : 30 min
```

例 2: クラスタサービスの停止を待ち合わせない場合

```
# clpstdncnf -d
```

```
Command succeeded.
```

```
# clpstdncnf -v
```

```
Mode : no wait
```

```
Timeout : 30 min
```

2.19 クラスタ統計情報を表示する (clpperfc コマンド)

クラスタ統計情報を表示します。

コマンドライン

```
clpperfc --starttime -g group_name
```

```
clpperfc --stoptime -g group_name
```

```
clpperfc -g [group_name]
```

```
clpperfc -m monitor_name
```

説明

グループの起動、停止時間の中央値 (ミリ秒) を表示します。

モニタリソースの監視処理時間 (ミリ秒) を表示します。

オプション

--starttime -g *group_name*

グループの起動時間の中央値を表示します。

--stoptime -g *group_name*

グループの停止時間の中央値を表示します。

-g [*group_name*]

グループの起動、停止時間の中央値を表示します。

groupname を省略した場合は、全グループの起動、停止時間の中央値を表示します。

-m *monitor_name*

直近のモニタリソースの監視処理時間を表示します。

戻り値

0	正常終了
1	コマンドオプション不正
2	ユーザ認証エラー
3	構成情報ロードエラー
4	構成情報ロードエラー
5	初期化エラー
6	内部エラー
7	内部通信初期化エラー
8	内部通信接続エラー
9	内部通信処理エラー
10	対象グループチェックエラー
12	タイムアウトエラー

実行例

グループの起動時間の中央値を表示する場合

```
# clpperfc --starttime -g failover1
200
```

特定グループの起動、停止時間の中央値を表示する場合

```
# clpperfc -g failover1
           start time      stop time
failover1      200          150
```

モニタリソースの監視処理時間を表示する場合

```
# clpperfc -m monitor1
100
```

備考

本コマンドで出力する時間の単位はミリ秒です。

有効なグループの起動時間、停止時間が取得できなかった場合は - が表示されます。

有効なモニタリソースの監視時間が取得できなかった場合は 0 が表示されます。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

次のページに続く

表 2.28 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処
Invalid option.	コマンドオプションが不正です。コマンドオプションを確認してください。
Command timeout.	コマンドの実行がタイムアウトしました。
Internal error.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.20 クラスタ構成情報をチェックする (clpcfchk コマンド)

クラスタ構成情報をチェックします。

コマンドライン

```
clpcfchk -o path [-i conf_path]
```

説明

クラスタ構成情報を基に設定値の妥当性を確認します。

オプション

-o path

チェック結果を保存するディレクトリを指定します。

-i conf_path

チェックする構成情報を保存したディレクトリを指定します。

省略した場合は、反映済みの構成情報をチェックします。

戻り値

0	正常終了
0 以外	エラー終了

実行例

反映済みの構成情報をチェックする場合

```
# clpcfchk -o /tmp
```

```
server1 : PASS
```

保存した構成情報をチェックする場合

```
# clpcfchk -o /tmp -i /tmp/config
```

```
server1 : PASS
```

実行結果

本コマンドの結果で表示されるチェック結果（総合結果）は以下になります。

チェック結果（総合結果）	説明
PASS	問題がありません。
FAIL	問題があります。 チェック結果を確認してください。

備考

各サーバの総合結果のみを表示します。

注意事項

本コマンドは、Administrator 権限を持つユーザで実行してください。

Cluster WebUI でエクスポートした構成情報をチェックする場合、事前に解凍してください。

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Could not opened the configuration file. Check if the configuration file exists on the specified path.	指定されたパスが存在しません。正しいパスを指定してください。
Server is busy. Check if this command is already run.	本コマンドはすでに起動されています。
Failed to obtain properties.	プロパティの取得に失敗しました。
Failed to check validation.	クラスタ構成チェックに失敗しました。
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient.	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

2.21 ファイアウォールの規則を追加する (clpfwctrl コマンド)

CLUSTERPRO で使用するサーバのファイアウォールの「受信の規則」を追加、削除します。

コマンドライン

```
clpfwctrl --add [--profile public | private | domain]
```

```
clpfwctrl --remove
```

```
clpfwctrl --help
```

説明

注釈: 本コマンドは サーバのファイアウォールを有効にしている場合に実行してください。

注釈: 本コマンドは、単一サーバ上での、ファイアウォールの「受信の規則」を追加、削除します。

注釈: 本コマンドは CLUSTERPRO インストール直後と構成情報反映直後に実行してください。

CLUSTERPRO で使用するポート番号にアクセスできるようにするため、ファイアウォールの「受信の規則」を追加します。また、追加した「受信の規則」を削除します。

本コマンドで設定するポート番号、プロトコルの詳細については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows インストールガイド』 - 「CLUSTERPRO X SingleServerSafe について」 - 「インストール前のサーバ環境の確認・準備」 - 「ファイアウォールの設定を確認する (必須)」を参照してください。

「受信の規則」に CLUSTERPRO で使用する規則を以下のグループ名と名前を追加します。既に同じグループ名が追加されている場合は、一度削除を行った後、追加を行います。グループ名の変更はしないでください。

- グループ名
 - CLUSTERPRO
- 名前
 - CLUSTERPRO (TCP-In)

- CLUSTERPRO (UDP-In)
- CLUSTERPRO (ICMPv4-In)
- CLUSTERPRO (ICMPv6-In)

オプション

--add [--profile public | private | domain]

ファイアウォールの「受信の規則」を追加します。プロファイル名を指定すると、指定したプロファイルを追加します。プロファイル名の指定がない場合は、「すべて」を指定します。

--remove

追加したファイアウォールの「受信の規則」の削除をします。

--help

Usage を表示します。

戻り値

0	成功
0 以外	異常

注意事項

本コマンドは Administrator 権限をもつユーザで実行してください。

本コマンドは「送信の規則」については追加を行いません。必要であれば別途追加をしてください。

JVM 監視リソースを 1 度でも登録すると、本コマンドは JVM 監視リソースの管理ポート番号を必ず許可します。

実行例

プロファイルに「すべて」を指定して「受信の規則」を追加する場合

```
# clpfwctrl.bat --add  
Command succeeded.
```

実行例

プロファイルに「ドメイン」と「プライベート」を指定して「受信の規則」を追加する場合

```
# clpfwctrl.bat --profile domain private  
Command succeeded.
```

実行例

追加した「受信の規則」を削除をする場合

```
# clpfwctrl.bat --remove
Command succeeded.
```

エラーメッセージ

メッセージ	原因/対処法
Log in as Administrator.	Administrator 権限を持つユーザで実行してください。
Invalid option.	正しいオプションを指定してください。
Log directory is not found.	正しくインストールされていないか、実行権限がない可能性があります。
Failed to register rule(CLUSTERPRO). Invalid port.	構成情報に不正なポート番号が設定されています。構成情報を確認してください。
Unsupported environment.	サポート対象外の OS です。
Could not read xmlpath. Check if xmlpath exists on the specified path. (%1)	xml パスが構成情報に存在するか確認してください。 %1 : xml パス
Could not opened the configuration file. Check if the configuration file exists on the specified path. (%1)	構成情報が存在するか確認してください。 %1 : xml パス
Could not read type. Check if type exists on the policy file. (%1)	ポリシーファイルが存在しているか確認してください。 %1 : xml パス
not exist xmlpath. (%1)	xml パスが構成情報に存在するか確認してください。 %1 : xml パス
Failed to obtain properties. (%1)	xml パスが構成情報に存在するか確認してください。 %1 : xml パス

次のページに続く

表 2.30 – 前のページからの続き

メッセージ	原因/対処法
Not exist java install path. (%1)	Java インストールパスが存在するか確認してください。 %1 : Java インストールパス
Internal error. Check if memory or OS resources are sufficient. (%1)	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。 %1 : xml パス

第 3 章

注意制限事項

本章では、注意事項や既知の問題とその回避策について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 3.1. *CLUSTERPRO X SingleServerSafe* 運用後

3.1 CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用後

運用を開始した後に発生する事象で留意して頂きたい事項です。

3.1.1 回復動作中の操作制限

モニタリソースの異常検出時の設定で回復対象にグループリソース (アプリケーションリソース、サービスリソース、...) を指定し、モニタリソースが異常を検出した場合の回復動作遷移中 (再活性化 → 最終動作) には、Cluster WebUI やコマンドによる以下の操作は行わないでください。

- クラスタの停止 / サスペンド
- グループの起動 / 停止

モニタリソース異常による回復動作遷移中に上記の制御を行うと、そのグループの他のグループリソースが停止しないことがあります。

また、モニタリソース異常状態であっても最終動作実行後であれば上記制御を行うことが可能です。

3.1.2 コマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルについて

インストールディレクトリ配下にコマンドリファレンスに記載されていない実行形式ファイルやスクリプトファイルがありますが、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 以外からは実行しないでください。

実行した場合の影響については、サポート対象外とします。

3.1.3 Cluster WebUI について

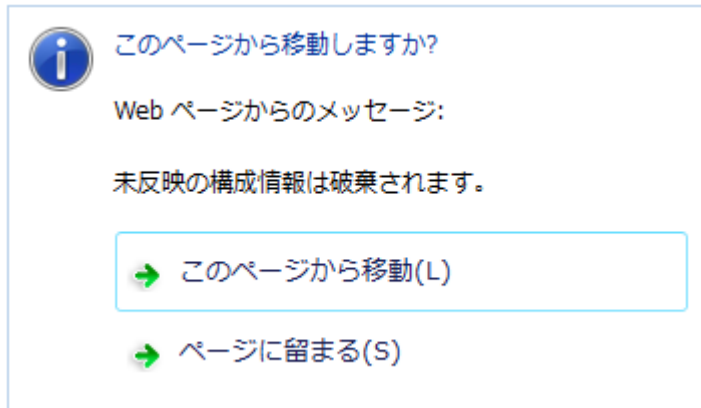
- 接続先と通信できない状態で操作を行うと、制御が戻ってくるまでしばらく時間が必要な場合があります。
- Proxy サーバを経由する場合は、Cluster WebUI のポート番号を中継できるように、Proxy サーバの設定をしてください。
- Reverse Proxy サーバを経由する場合、Cluster WebUI は正常に動作しません。

CLUSTERPRO X SingleServerSafe のアップデートを行った場合、起動している全てのブラウザを一旦終了してください。

ブラウザ側のキャッシュをクリアして、ブラウザを起動してください。

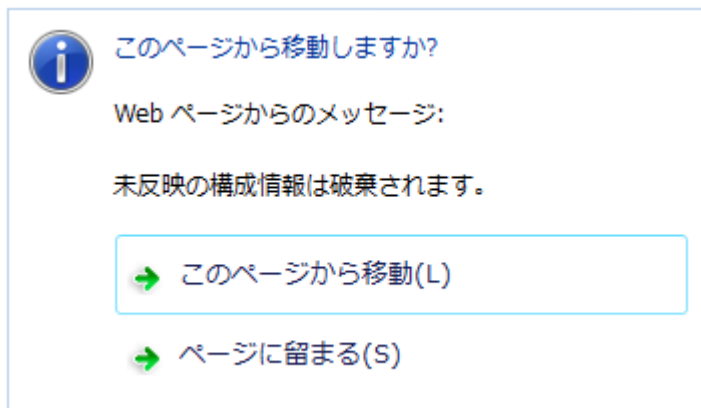
- 本製品より新しいバージョンで作成されたクラスタ構成情報は、本製品で利用することはできません。

- Web ブラウザを終了すると (ウィンドウフレームの [X] 等)、確認ダイアログが表示される場合があります。



設定を続行する場合は [ページに留まる] を選択してください。

- Web ブラウザをリロードすると (メニューの [最新の情報に更新] やツールバーの [現在のページを再読み込み] 等)、確認ダイアログが表示される場合があります。



設定を続行する場合は [ページに留まる] を選択してください。

- 上記以外の Cluster WebUI の注意制限事項についてはオンラインマニュアルを参照してください。

3.1.4 CLUSTERPRO Disk Agent サービスについて

CLUSTERPRO Disk Agent サービスは CLUSTERPRO X SingleServerSafe では使用していません。CLUSTERPRO Disk Agent サービスは起動しないでください。

3.1.5 Windows Server 2012 以降の環境におけるユーザーアカウント制御の影響について

Windows Server 2012 以降では、既定値でユーザーアカウント制御 (User Account Control, 以下 UAC と略します) が有効となっています。UAC が有効となっている場合、下記の機能に影響があります。

モニタリソース

下記のモニタリソースに影響があります。

Oracle 監視リソース

Oracle 監視リソースにおいて「認証方式」を [OS 認証] とした場合、監視ユーザに Administrators グループ以外のユーザが設定されていると、Oracle 監視の処理は失敗します。

「認証方式」に [OS 認証] を設定する場合は、「監視ユーザ」に設定するユーザは Administrators グループに属するようにしてください。

3.1.6 アプリケーションリソース / スクリプトリソースの画面表示について

CLUSTERPRO のアプリケーションリソース・スクリプトリソースから起動したプロセスはセッション 0 で実行されるため、GUI を持つプロセスを起動した場合、「対話型サービス ダイアログの検出」ポップアップが表示され、このポップアップで「メッセージを表示する」を選択しないと GUI が表示されません。

3.1.7 ネットワークインターフェイスカード (NIC) が二重化されている環境について

NIC が二重化されている環境の場合、OS 起動時の NIC の初期化に時間がかかることがあります。初期化が完了する前にクラスタが起動すると、カーネルモード LAN ハートビートリソース (lankhb) の起動に失敗することがあります。この場合、NIC の初期化が完了しても、カーネルモード LAN ハートビートリソースの状態は正常に戻りません。この状態から復旧させるためには、クラスタをサスペンドした後、クラスタをリジュームする必要があります。

また、上記の現象を回避するためにネットワーク初期化完了待ち時間の設定でクラスタの起動を遅らせることを推奨します。

- ネットワーク初期化完了待ち時間

設定した時間に達していない場合でも、ネットワークの初期化が完了すると、クラスタの起動を開始します。

3.1.8 CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントについて

CLUSTERPRO のサービスのログオンアカウントは [ローカル システム アカウント] に設定されています。このログオンアカウントの設定を変更すると、クラスタとして正しく動作しない可能性があります。

3.1.9 CLUSTERPRO の常駐プロセスの監視について

プロセスを監視するようなソフトウェアにより、CLUSTERPRO の常駐プロセスを監視すること自体には問題はありませんが、プロセスの異常終了時などにプロセスの再起動などの回復動作は行わないでください。

3.1.10 JVM 監視リソースについて

- 監視対象の Java VM を再起動する場合は JVM 監視リソースをサスペンドするか、クラスタ停止を行った後に行ってください。
- 設定内容を変更時にクラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを行う必要があります。
- モニタリソースの遅延警告には対応していません。

3.1.11 システム監視リソース、プロセスリソース監視リソースについて

- 設定内容を変更時にクラスタサスペンドを行う必要があります。
- モニタリソースの遅延警告には対応していません。
- 動作中に OS の日付/時刻を変更した場合、10 分間隔で行っている解析処理のタイミングが日付 / 時刻変更後の最初の 1 回だけずれてしまいます。以下のようなことが発生するため、必要に応じてクラスタのサスペンド・リジュームを行ってください。
 - 異常として検出する経過時間を過ぎても、異常検出が行われない。
 - 異常として検出する経過時間前に、異常検出が行われる。
- システム監視リソースのディスクリソース監視機能で同時に監視できる最大のディスク数は 26 台です。

3.1.12 [対話型サービスダイアログの検出] ポップアップ表示について

既定値で「Interactive Service Detection」サービスの起動が無効となっているため、以下の手順に従い有効化してください。

参考:

[http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/ms683502\(v=vs.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/ms683502(v=vs.85).aspx)

→[Using an Interactive Service]

第 4 章

エラーメッセージ一覧

本章では、CLUSTERPRO X SingleServerSafe 運用中に表示されるエラーメッセージの一覧について説明します。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 4.1. セットアップ中のエラーメッセージ
- 4.2. イベントログ、アラートメッセージ
- 4.3. ドライブイベントログメッセージ
- 4.4. グループリソース活性/非活性時の詳細情報
- 4.5. モニタリソース異常時の詳細情報
- 4.6. ディスク RW 監視リソースの *STOP* コード一覧
- 4.7. JVM 監視リソースのログ出力メッセージ
- 4.8. ユーザ空間監視リソースの *STOP* コード一覧
- 4.9. クラスタ構成情報チェックの詳細情報

4.1 セットアップ中のエラーメッセージ

モジュールタイプ	エラーメッセージ	対処説明
setup	以前のバージョンの CLUSTERPRO がインストールされています。このバージョンからのアップグレードはサポートされていません。以前のバージョンの CLUSTERPRO をアンインストール後に、再度インストールを行ってください。	以前のバージョンの CLUSTERPRO をアンインストール後に、再度インストールを行ってください。
setup	SNMP サービスが開始されています。SNMP サービスを停止してからアンインストールを行ってください。今すぐに、SNMP サービスを停止しますか？	[はい] を選択することで、CLUSTERPRO Setup が SNMP サービスを自動的に停止してインストールを続けます。または、[いいえ] を選択してインストールを中断した後、手動で SNMP サービスを停止させ、再度インストールを実施してください。
setup	セットアップに失敗しました。 エラーコード：xxx	<ul style="list-style-type: none"> － マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。 － 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。 － OS を再起動後、再度インストールを実施してください。
setup	セットアップに失敗しました (xxx)。 エラーコード：xxx 再起動後インストールしてください。	<ul style="list-style-type: none"> － マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。 － 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。 － OS を再起動後、再度インストールを実施してください。
setup	サポートされていない環境です。	動作環境を満たしている環境でインストールを実施してください。

次のページに続く

表 4.1 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	エラーメッセージ	対処説明
setup	起動中の CLUSTERPRO のサービスが存在するためアンインストールできません。 CLUSTERPRO のサービスを全て停止してから再度アンインストールを実行してください。	CLUSTERPRO のサービスを全て停止してから再度アンインストールを実行してください。
setup	インストーラの起動に失敗しました。(エラーコード: xxx)	<ul style="list-style-type: none">－ マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。－ 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。－ インストーラのファイルの破損、不足の可能性がありますので確認してください。
setup	内部エラーが発生しました。 (xxx)	<ul style="list-style-type: none">－ マニュアルに記載の動作環境・セットアップ手順・注意事項を確認の上、それらの記述に従っているか確認してください。－ 他に起動中のアプリケーションがあれば終了させてください。

4.2 イベントログ、アラートメッセージ

アプリケーション イベントログや、Cluster WebUI のアラートログ等に出力されるメッセージの一覧です。**Alert**、**Eventlog**、**Userlog** の各列に●印のあるメッセージが、それぞれのログに記録されます。各ログの参照方法は以下の通りです。

ログ名	参照方法	ファイル名
Alert	Cluster WebUI のアラートログに出力されます。「ログ収集ツール」を使用して収集することもできます。	Alertlog.alt
Eventlog	OS のイベントビューア (アプリケーションログ) に出力されます。イベントのソースは "CLUSTERPRO X" です。「ログ収集ツール」を使用して収集することもできますが、右記のファイル名にてバイナリ形式で収集されるため、内容を参照するには CLUSTERPRO がセットアップされた環境でイベントビューアを使ってファイルを開く必要があります。	Application.evtx System.evtx
Userlog	詳細情報が記録されるテキスト形式のログです。「ログ収集ツール」を使用して収集したログの log フォルダ配下の "userlog.00.log" ファイルに出力されます。	userlog.00.log

Mail Report の列に●印のあるメッセージはアラートサービスのメール通報を設定している 場合に通報されます。

SNMP Trap の列に●印のあるメッセージはアラートサービスの SNMP Trap 送信を設定している 場合に通報されます。

通報設定 は ESM-PRO/AlertManager と連携している場合の通報の設定です。Alive は ESM-PRO/AlertManager が Alive 通報を行います。Manager は ESM-PRO/AlertManager にアラートを出力します。詳細は ESM-PRO/AlertManager のマニュアルを参照してください。

メール通報、SNMP Trap 送信については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 - 「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「アラートサービスタブ」を参照してください。

Message Topic の列に●印のあるメッセージは Amazon SNS 連携機能を設定している場合に通報されます。

Amazon SNS 連携機能については『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 - 「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「クラウドタブ」を参照してください。

×印のあるメッセージは『CLUSTERPRO X SingleServerSafe for Windows 設定ガイド』 - 「その他の設定の詳細」 - 「クラスタプロパティ」 - 「アラートサービスタブ」による通報設定は行えません。

下表で使用する記号は以下を表します。

[1]Alert, [2]Eventlog, [3]Userlog, [4]Mail Report, [5]SNMP Trap, [6]Alive, [7]Manager, [8]Message Topic

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	情報	1	サーバ %1 が起動しました。	サーバ起動	-	●	●						
nm	情報	2	サーバ %1 が停止しました。	サーバ停止	サーバのダウンを検出しました。サーバの障害を取り除いた上で、サーバをクラスタに復帰してください。	●	●		●	●	●	●	●
nm	情報	3	サーバ %1 のリソース %2 が起動しました。	リソース起動	-			●					
nm	エラー	4	サーバ %1 のリソース %2 が異常です。	リソース異常	リソース異常の要因を取り除いてください。			●					
nm	情報	5	サーバ %1 のリソース %2 が正常状態に復帰しました。	リソース復帰	-			●					
nm	エラー	6	サーバ %1 のリソース %2 の状態が不明です。	リソース状態不明	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	エラー	7	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ %1 をシャットダウンします。	ネットワークパーティション検出	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●			●	●	
nm	エラー	8	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ %1 をシャットダウンします。	ネットワークパーティション確認不可	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	●			●	●	
nm	エラー	9	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。複数のサーバでフェイルオーバーする可能性があるため、サーバ %1 はフェイルオーバーを保留しました。	フェイルオーバー保留	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	●			●	●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	情報	10	サーバ %1 は保留していたフェイルオーバーを解除しました。	フェイルオーバー保留解除	-	●	●	●					
nm	エラー	11	サーバ %1 をシャットダウンします。(理由:%2)	サーバシャットダウン	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●				●	●	
nm	エラー	12	クラスタサービスを停止します。(理由:%1)	クラスタサービス停止	理由に示す要因を取り除いてください。	●	●					●	
nm	警告	13	ネットワークパーティション解決リソースの組み合わせが不正です。(サーバ名:%1)	NP リソース組み合わせ不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	エラー	14	ハートビート %1 の状態が異常です。	ハートビート異常	ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●				●	●	
nm	情報	15	ハートビート %1 の状態が正常状態に復帰しました。	ハートビート復帰	-	●	●						
nm	エラー	16	サーバ %1 のネットワークパーティション %2 が異常です。	ネットワークパーティション異常	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●				●	●	
nm	情報	17	サーバ %1 のネットワークパーティション %2 が正常状態に復帰しました。	ネットワークパーティション復帰	-	●	●						
nm	エラー	18	リソース %1 の起動に失敗しました。(サーバ名:%2)	リソース起動失敗	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●				●	●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	情報	19	サーバの起動待ち合わせをキャンセルしました。	サーバの起動待ち合わせキャンセル	-	●	●						
nm	エラー	20	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ %1 のクラスタサービスを停止します。	ネットワークパーティション検出	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●					
nm	エラー	21	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ %1 のクラスタサービスを停止します。	ネットワークパーティション確認不可	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	エラー	22	ネットワークパーティションを検出しました。データ保護のためサーバ %2 で %1 を実行します。	ネットワークパーティション検出	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●					
nm	エラー	23	ネットワークパーティションの確認時に問題が発生しました。データ保護のためサーバ %2 で %1 を実行します。	ネットワークパーティション確認不可	イベントログを参照してリソースでエラーが発生していないか確認してください。	●	●	●					
nm	エラー	24	サーバ %2 で %1 を実行します。(理由:%3)	ネットワークパーティション解決不可	全てのハートビートが使用できない状態です。ネットワークアダプタでエラーが発生していないか、あるいはネットワークが正しく接続されているか確認してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
nm	警告	25	クラスタ起動時のネットワークパーティション解決処理が無効になっています。	ネットワークパーティション解決無効化	クラスタ起動時のネットワークパーティション解決処理が無効になっています。	●	●	●					
pm	情報	501	クラスタサービスは正常に開始しました。	クラスタサービス開始	-	●	●	●					
pm	情報	502	クラスタサービスは停止しています。	クラスタサービス停止	-	●	●	●					
pm	エラー	510	クラスタサービスは既に開始しています。	クラスタサービス二重起動	クラスタサービスの状態を確認してください。	●	●	●				●	
pm	エラー	511	クラスタサービスで致命的なエラーが発生しました。	クラスタサービス致命的エラー	必要な権限を持つアカウントでサービスが起動されていないか、あるいはシステムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●	●	●		●	●
pm	エラー	512	xml ライブラリの異常を検出しました。	xml ライブラリ異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	エラー	513	クラスタ構成情報ファイルで問題を検出しました。	コンフィグファイル異常	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●	●	●		●	●
pm	エラー	514	クラスタ構成情報ファイルが存在しません。	コンフィグファイル存在せず	クラスタ構成情報をアップロードしてください。	●	●	●				●	
pm	エラー	515	クラスタ構成情報ファイル内に自サーバ名のエントリが存在しません。	自ホスト名のエントリなし	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
pm	警告	516	回復動作の OS 停止動作を OS 再起動動作に変更する設定になっています。	クラスタプロパティ設定確認	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	エラー	520	%1 プロセスが異常終了しました。	プロセス異常終了	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。 nm プロセスが異常終了した場合でも業務影響はありませんが、クラスタ停止操作を行うことができません。回復するには、Cluster WebUI や clp-down コマンドにて OS 再起動を実施してください。	●	●	●	●	●		●	●
pm	エラー	521	クラスタサービスのプロセスがエラーを返して終了しました。(システムを停止しています)	プロセス異常終了 (システム停止)	グループリソースの非活性化失敗が考えられます。グループリソースのメッセージに従って対処を行ってください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	エラー	522	%1 プロセスの初期化中にエラーが発生しました。(return code:%2)	初期化エラー	初期化エラーの要因を取り除いてください。	●	●	●	●	●		●	●
pm	情報	523	システムをシャットダウンします。	システムシャットダウン	-	●	●	●					
pm	情報	524	クラスタサービスを停止します。	クラスタサービス停止	-	●	●	●					
pm	情報	525	システムを再起動します。	システム再起動	-	●	●	●					
pm	情報	526	%1 プロセスを再起動します。	プロセス再起動	-	●	●	●					
pm	情報	527	緊急シャットダウンします。	緊急シャットダウン	-	●	●	●					
pm	情報	528	STOP エラーを発生させます。	STOP エラー	-	●	●	●					
pm	情報	529	ハードウェアリセットを発生させます。	ハードウェアリセット	-	●	●	●					
pm	情報	530	%1 よりシステムのシャットダウンが要求されました。	システムシャットダウン要求	-	●	●	●					
pm	情報	531	%1 よりクラスタサービスの停止が要求されました。	クラスタサービス停止要求	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	情報	532	%1 よりシステムの再起動が要求されました。	システム再起動要求	-	●	●	●					
pm	情報	533	%1 よりクラスタサービスの再起動が要求されました。	クラスタサービスの再起動要求	-	●	●	●					
pm	情報	534	%1 よりクラスタサービスのリジュームが要求されました。	クラスタサービスのリジューム要求	-	●	●	●					
pm	情報	535	%1 よりクラスタサービスのサスペンドが要求されました。	クラスタサービスのサスペンド要求	-	●	●	●					
pm	情報	536	%1 より緊急シャットダウンが要求されました。	緊急シャットダウン要求	-	●	●	●					
pm	情報	537	%1 より STOP エラーが要求されました。	STOP エラー要求	-	●	●	●					
pm	情報	538	%1 よりハードウェアリセットが要求されました。	ハードウェアリセット要求	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pm	情報	540	自動運転ソフトウェアにシステムのシャットダウンを要求します。	自動運転ソフトウェアへのシステムシャットダウン要求	-	●	●	●					
pm	情報	541	自動運転ソフトウェアにシステムのシャットダウン (再起動) を要求します。	自動運転ソフトウェアへのシステムシャットダウン (再起動) 要求	-	●	●	●					
pm	情報	542	自動運転ソフトウェアへのシステムのシャットダウン要求を完了しました。	自動運転ソフトウェアへのシステムシャットダウン要求完了	-	●	●	●					
pm	エラー	543	自動運転ソフトウェアはシステムのシャットダウン要求に対しエラーを返しました。	自動運転ソフトウェアによるシステムシャットダウン処理失敗	自動運転ソフトウェアの設定が正しくない可能性があります。確認してください。	●	●	●					●
pm	エラー	544	自動運転ソフトウェアとの通信に失敗しました。	自動運転ソフトウェアとの通信失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●
pmsvc	エラー	801	リジュームに失敗したため、システムをシャットダウンします。	リジューム失敗によるシャットダウン	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
pmsvc	エラー	802	システムのシャットダウンに失敗しました。	シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
pmsvc	情報	810	クラスタサービス以外からシステムのシャットダウンが要求されました。クラスタサービスの停止完了を待ち合わせます。(％1 分)	クラスタサービス停止待ち合わせ開始	-	●	●	●					
pmsvc	情報	811	クラスタサービスの停止待ち合わせが完了しました。	クラスタサービス停止待ち合わせ完了	-	●	●	●					
pmsvc	エラー	812	クラスタサービスの停止待ち合わせがタイムアウトしました。	クラスタサービス待ち合わせタイムアウト	-	●	●	●					
pmsvc	警告	813	クラスタサービスの停止待ち合わせがキャンセルされました。	クラスタサービス停止待ち合わせキャンセル	-	●	●	●					
rc	情報	1010	グループ %1 を起動しています。	グループ起動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1011	グループ %1 の起動が完了しました。	グループ起動完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1012	グループ %1 の起動に失敗 しました。	グループ起動 失敗	グループリ ソースのメッ セージに従っ た対処を行っ てください。	●	●	●				●	
rc	情報	1015	グループ %1 の起動待ち合 わせ処理を開 始しました。	グループ起動 待ち合わせ処 理開始	-	●	●	●					
rc	情報	1016	グループ %1 の起動待ち合 わせ処理が完 了しました。	グループ起動 待ち合わせ処 理完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1017	グループ %1 の起動待ち合 わせ処理でタ イムアウトが 発生したため グループの起 動を中止しま した。(%2)	グループ起動 待ち合わせ処 理中止	起動待ち合 わせ先グループ の状態を確認 してくだ さい。 グループが起 動されていない場合は、そ のグループを 起動後に再度 グループ操作 を実行してく ださい。	●	●	●					
rc	警告	1018	グループ %1 の起動待ち合 わせ処理でタ イムアウトが 発生しまし たが、グループ の起動を継続 します。(%2)	グループ起動 処理継続	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1019	サーバ %1 はグループ %2 を起動できる状態ではありません。	グループ起動不可	対象サーバが保留 (ダウン後再起動) の場合はサーバ復帰操作を行ってください。保留 (NP 未解決) の場合は NP リソースを正常な状態にしてください。	●							
rc	情報	1020	グループ %1 を停止しています。	グループ停止開始	-	●	●	●					
rc	情報	1021	グループ %1 の停止が完了しました。	グループ停止完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1022	グループ %1 の停止に失敗しました。	グループ停止失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●					●
rc	情報	1025	グループ %1 の停止待ち合わせ処理を開始しました。	グループ停止待ち合わせ処理開始	-	●	●	●					
rc	情報	1026	グループ %1 の停止待ち合わせ処理が完了しました。	グループ停止待ち合わせ処理完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1027	グループ %1 の停止待ち合わせ処理でタイムアウトが発生したため グループの停止を中止しました。(%2)	グループ停止 待ち合わせ処理中止	停止待ち合わせ先グループ の状態を確認してください。 グループが停止されていない場合は、そのグループを 停止後に再度グループ操作 を実行してください。	●	●	●					
rc	警告	1028	グループ %1 の停止待ち合わせ処理でタイムアウトが発生しましたが、グループ の停止を継続します。(%2)	グループ停止 待ち合わせ処理継続	-	●	●	●					
rc	情報	1030	リソース %1 を起動しています。	リソース起動 開始	-		●	●					
rc	情報	1031	リソース %1 の起動が完了しました。	リソース起動 完了	-		●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1032	リソース %1 の起動に失 敗しました。 (%2 : %3)	リソース起動 失敗	リソース起動 失敗の原因を 取り除いてく ださい。 起動処理でス トールが発生 した場合には 「リソース %1 の起動に失敗 しました。 (99 : command is timeout)」が 出力され ます。	●	●	●	●	●		●	●
rc	エラー	1033	リソース %1 の復帰スクリ プト起動に失 敗しました。 (%2 : %3)	復帰スクリプ ト起動失敗	復帰スクリプ ト起動失敗 の原因を取り 除いてくださ い。	●	●	●				●	
rc	情報	1034	サーバ %2 で の リ ソ ー ス %1 の起動要 求を開始しま した。	待機系サーバ へのリソース 起動要求	-	●	●	●					
rc	情報	1035	サーバ %2 で の リ ソ ー ス %1 の起動要 求が完了しま した。	待機系サーバ へのリソース 起動要求完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1036	サーバ %2 のリソース %1 の起動要求が失敗しました。	待機系サーバへのリソース起動要求失敗	ネットワークに異常が発生していないか、または相手サーバに異常が発生していないか確認してください	●	●	●					
rc	情報	1040	リソース %1 を停止しています。	リソース停止開始	-		●	●					
rc	情報	1041	リソース %1 の停止が完了しました。	リソース停止完了	-		●	●					
rc	エラー	1042	リソース %1 の停止に失敗しました。 (%2 : %3)	リソース停止失敗	リソース停止失敗の原因を取り除いてください。 停止処理でストールが発生した場合には「リソース %1 の停止に失敗しました。 (99 : command is timeout)」が出力されます。	●	●	●	●	●		●	●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1043	リソース %1 の停止待ち合わせ処理をキャンセルしましたが、リソースの停止を継続します。	リソース停止待ち合わせキャンセル	-		●	●					
rc	情報	1044	サーバ %2 のリソース %1 の停止要求を開始しました。	待機系サーバへのリソース停止要求	-	●	●	●					
rc	情報	1045	サーバ %2 のリソース %1 の停止要求が完了しました。	待機系サーバへのリソース停止要求完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1046	サーバ %2 のリソース %1 の停止要求が失敗しました。	待機系サーバへのリソース停止要求失敗	ネットワークに異常が発生していないか、または相手サーバに異常が発生していないか確認してください	●	●	●					
rc	情報	1050	グループ %1 を移動しています。	グループ移動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1051	グループ %1 の移動が完了しました。	グループ移動完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1052	グループ %1 の移動に失敗しました。	グループ移動失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●					●
rc	警告	1059	サーバ %1 はグループ %2 を移動できる状態ではありません。	グループ移動不可	対象サーバが保留 (ダウン後再起動) の場合はサーバ復帰操作を行ってください。保留 (NP 未解決) の場合は NP リソースを正常な状態にしてください。	●							
rc	情報	1060	グループ %1 をフェイルオーバーしています。	グループフェイルオーバー開始	-	●	●	●					
rc	情報	1061	グループ %1 のフェイルオーバーが完了しました。	グループフェイルオーバー完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1062	グループ %1 のフェイルオーバーに失敗しました。	グループフェイルオーバー失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●					●
rc	情報	1070	グループ %1 を再起動しています。	グループ再起動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1071	グループ %1 の再起動が完了しました。	グループ再起動完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1072	グループ %1 の再起動に失敗しました。	グループ再起動失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●					●
rc	エラー	1077	内部通信ができないサーバが存在するため、グループのフェイルオーバー処理が失敗しました。	グループフェイルオーバー失敗 (内部通信不可)	カーネルモード LAN ハートビートの状態を確認してください。内部通信の復旧後、グループを起動してください。	●	●	●					
rc	情報	1080	リソース %1 を再起動しています。	リソース再起動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1081	リソース %1 の再起動が完了しました。	リソース再起動完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1082	リソース %1 の再起動に失敗しました。	リソース再起動失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●					●
rc	情報	1090	クラスタをシャットダウンしています。	クラスタシャットダウン	-	●	●	●					
rc	情報	1091	サーバをシャットダウンしています。	サーバシャットダウン	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1092	グループ %1 が複数のサーバで起動しました。	グループ二重起動	サーバが自動的にシャットダウンします。グループが複数のサーバで起動した原因を取り除いてください。	●	●	●	●	●		●	●
rc	エラー	1093	クラスタサービス以外からシステムのシャットダウンが実行されました。	クラスタ以外からのシャットダウン発生	クラスタサービス以外からシステムのシャットダウンが実行された場合、異常とみなされます。クラスタ環境では、所定の手順でシャットダウンを実施してください。	●	●	●				●	
rc	警告	1100	シャットダウン回数が最大値 (%1) に達しました。リソース %2 の最終動作は無視されました。	シャットダウン回数最大値到達	-	●	●	●	●	●		●	●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1101	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の活性異常の最終動作を抑制しました。	活性異常の最終動作の抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1102	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためグループリソース %1 の非活性異常の最終動作を抑制しました。	非活性異常の最終動作の抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1103	%1 は両系活性検出時にシャットダウンを抑制するサーバに指定されているためシャットダウン要求を無視しました。	両系活性によるシャットダウンの抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1104	サーバ間でグループ %1 の状態の不整合が発生しています。	グループ状態の不整合発生	グループの再起動、またはクラスタリブートを実施してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1105	%1 は両系活性検出時にシャットダウンを抑制するサーバに指定されていないためシャットダウン要求を実行しました。	両系活性によるシャットダウン	-	●	●	●					
rc	情報	1106	グループリソース異常による再起動回数をリセットしました。	再起動回数リセット (グループリソース)	-	●	●	●					
rc	情報	1110	サーバ %1 はクラスタに復帰しました。	サーバ復帰	-	●	●	●					
rc	情報	1111	サーバ %1 はクラスタから切り離されました。	サーバ切り離し	-	●	●	●					
rc	情報	1112	サーバ %1 はクラスタへの復帰を開始しました。	サーバ復帰開始	-	●	●	●					
rc	エラー	1113	サーバ %1 はクラスタへの復帰に失敗しました。	サーバ復帰失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1120	サーバ %1 は自動運転ソフトウェアにシャットダウン開始を通知します。	シャットダウン開始の通知	-	●	●	●					
rc	エラー	1121	サーバ %1 でシャットダウン開始の通知に対し、自動運転ソフトウェアはエラーを返しました。	シャットダウン開始の通知失敗	自動運転ソフトウェアの設定が正しくない可能性があります。自動運転ソフトウェアの設定を確認してください。	●	●	●					●
rc	情報	1122	サーバ %1 は自動運転ソフトウェアにシャットダウン開始を通知しました。	シャットダウン開始の通知完了	-	●	●	●					
rc	情報	1123	自動運転ソフトウェアへ共有ディスクの電源投入を確認中です。電源投入確認後にサーバを再起動します。	電源投入確認待ち	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1124	自動運転ソフトウェアからエラーが戻されました。共有ディスクの電源投入確認ができませんでした。	電源投入確認失敗	自動運転ソフトウェアの設定が正しくない可能性があります。自動運転ソフトウェアの設定を確認してください。または、自動電源制御装置に異常が発生している可能性があります。自動電源制御装置を確認してください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1125	サーバ %1 は自動運転ソフトウェアとの通信に失敗しました。	自動運転ソフトウェアとの通信失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rc	情報	1130	リソース %1 を単体起動しています。	リソース単体起動開始	-	●	●	●					
rc	情報	1131	リソース %1 の単体起動が完了しました。	リソース単体起動完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1132	リソース %1 の単体起動に失敗しました。	リソース単体起動失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1139	サーバ %1 はリソース %2 を単体起動できません。	リソース単体起動不可	対象サーバが保留 (ダウン後再起動) の場合はサーバ復帰操作を行ってください。保留 (NP 未解決) の場合は NP リソースを正常な状態にしてください。	●							
rc	情報	1140	リソース %1 を単体停止しています。	リソース単体停止開始	-	●	●	●					
rc	情報	1141	リソース %1 の単体停止が完了しました。	リソース単体停止完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1142	リソース %1 の単体停止に失敗しました。	リソース単体停止失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	情報	1150	グループ %1 をマイグレーションしています。	グループマイグレーション開始	-	●	●	●					
rc	情報	1151	グループ %1 のマイグレーションが完了しました。	グループマイグレーション完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1152	グループ %1 のマイグレーションに失敗しました。	グループマイグレーション失敗	グループリソースのメッセージに従った対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	警告	1159	サーバ %1 はグループ %2 をマイグレーションできる状態ではありません。	グループマイグレーション不可	対象サーバが保留 (ダウン後再起動) の場合はサーバ復帰操作を行ってください。保留 (NP 未解決) の場合は NP リソースを正常な状態にしてください。	●	●	●					
rc	情報	1170	同一サーバグループ %2 内のサーバ %1 をグループ %3 の起動先として設定しました。	サーバグループ内フェイルオーバー	-	●	●	●					
rc	情報	1171	同一サーバグループ %2 外のサーバ %1 をグループ %3 の起動先として設定しました。	サーバグループ外フェイルオーバー	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1179	同一サーバグループ %2 内にフェイルオーバー可能なサーバが存在しないため、グループ %1 のフェイルオーバーを行いませんでした。	サーバグループ内 フェイルオーバー不可	サーバグループ内の他のサーバが停止済またはダウン後再起動の状態です。該当のサーバを起動またはクラスタへ復帰させてください。	●	●	●					
rc	情報	1200	リソース %1 の起動失敗によりリソース %2 を再起動します。	リソース起動失敗によりリソース再起動	-	●	●	●					
rc	情報	1201	リソース %3 の起動失敗によりグループ %1 をサーバ %2 にフェイルオーバーします。	リソース起動失敗によりグループフェイルオーバー	-	●	●	●					
rc	情報	1202	リソース %2 の起動失敗によりグループ %1 を停止します。	リソース起動失敗によりグループ停止	-	●	●	●					
rc	情報	1203	リソース %1 の起動失敗によりクラスタサービスを停止します。	リソース起動失敗によりクラスタサービス停止	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1204	リソース %1 の起動失敗によりシステムをシャットダウンします。	リソース起動失敗によりシステムシャットダウン	-	●	●	●					
rc	情報	1205	リソース %1 の起動失敗によりシステムを再起動します。	リソース起動失敗によりシステム再起動	-	●	●	●					
rc	情報	1220	リソース %2 の停止失敗によりリソース %1 の停止をリトライします。	リソース停止失敗によりリソース停止リトライ	-	●	●	●					
rc	情報	1223	リソース %1 の停止失敗によりクラスタサービスを停止します。	リソース停止失敗によりクラスタサービス停止	-	●	●	●					
rc	情報	1224	リソース %1 の停止失敗によりシステムをシャットダウンします。	リソース停止失敗によりシステムシャットダウン	-	●	●	●					
rc	情報	1225	リソース %1 の停止失敗によりシステムを再起動します。	リソース停止失敗によりシステム再起動	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1241	リソース %1 の起動失敗に よりハードウ ェアリセット を発生させま す。	リソース起動 失敗により ハードウェア リセット発生	-	●	●	●					
rc	情報	1242	リソース %1 の起動失敗に より STOP エ ラーを発生さ せます。	リソース起動 失敗により STOP エラー 発生	-	●	●	●					
rc	情報	1281	リソース %1 の停止失敗に よりハードウ ェアリセット を発生させま す。	リソース停止 失敗により ハードウェア リセット発生	-	●	●	●					
rc	情報	1282	リソース %1 の停止失敗に より STOP エ ラーを発生さ せます。	リソース停止 失敗により STOP エラー 発生	-	●	●	●					
rc	情報	1300	リソース %1 の活性異常時 最終動作前ス クリプトを開 始しました。	リソース活性 異常時 最終動 作前スクリプ ト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1301	リソース %1 の活性異常時 最終動作前ス クリプトが完 了しました。	リソース活性 異常時 最終動 作前スクリプ ト完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1302	リソース %1 の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	リソース非活性異常時最終動作前スクリプト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1303	リソース %1 の非活性異常時最終動作前スクリプトを開始しました。	リソース非活性異常時最終動作前スクリプト完了	-	●	●	●					
rc	情報	1304	リソース %1 の活性前スクリプトを開始しました。	リソース活性前スクリプト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1305	リソース %1 の活性前スクリプトが完了しました。	リソース活性前スクリプト完了	-	●	●	●					
rc	情報	1306	リソース %1 の活性後スクリプトを開始しました。	リソース活性後スクリプト開始	-	●	●	●					
rc	情報	1307	リソース %1 の活性後スクリプトが完了しました。	リソース活性後スクリプト完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1308	リソース %1 の非活性前ス クリプトを開 始しました。	リソース非活 性前 スクリプト 開始	-	●	●	●					
rc	情報	1309	リソース %1 の非活性前ス クリプトが完 了しました。	リソース非活 性前 スクリプト 完了	-	●	●	●					
rc	情報	1310	リソース %1 の非活性後ス クリプトを開 始しました。	リソース非活 性後 スクリプト 開始	-	●	●	●					
rc	情報	1311	リソース %1 の非活性後ス クリプトが完 了しました。	リソース非活 性後 スクリプト 完了	-	●	●	●					
rc	エラー	1340	リソース %1 の活性異常時 最終動作前ス クリプトが失 敗しました。	リソース活性 異常時 最終動 作前スクリプ ト失敗	スクリプトが 失敗した原因 を確認し、対 処を行ってく ださい。	●	●	●				●	
rc	エラー	1341	リソース %1 の非活性異 常時最終動作 前スクリプト が失敗しまし た。	リソース非活 性異常時最終 動作前スクリ プト失敗	スクリプトが 失敗した原因 を確認し、対 処を行ってく ださい。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1342	リソース %1 の活性前スクリプトが失敗しました。	リソース活性前 スクリプト 失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1343	リソース %1 の活性後スクリプトが失敗しました。	リソース活性後 スクリプト 失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1344	リソース %1 の非活性前スクリプトが失敗しました。	リソース非活性前 スクリプト 失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1345	リソース %1 の非活性後スクリプトが失敗しました。	リソース非活性後 スクリプト 失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●				●	
rc	エラー	1346	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザログオン失敗	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1400	強制停止の定期チェックの状態が正常に復帰しました。	強制停止 ステータス正常	-	●	●	●					
rc	エラー	1401	強制停止の定期チェックが異常を検出しました。	強制停止 ステータス異常	強制停止機能が正しく動作できない状態になっている可能性があります。異常の原因を確認してください。	●	●	●					
rc	エラー	1402	強制停止のサーバ停止要求がタイムアウトしました。	強制停止 停止要求タイムアウト	停止要求がタイムアウトした原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
rc	情報	1403	強制停止のサーバ停止要求をリトライします。	強制停止 停止要求リトライ	-	●	●	●					
rc	エラー	1404	強制停止のサーバ停止確認がタイムアウトしました。	強制停止 停止確認タイムアウト	停止確認がタイムアウトした原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
rc	情報	1405	強制停止のサーバ停止確認をリトライします。	強制停止 停止確認リトライ	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1427	サーバ %1 への強制停止が失敗したため、フェイルオーバーは実行しません。	強制停止失敗によるフェイルオーバー抑制	強制停止が失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
rc	警告	1450	クラスタ動作が無効化されています。	クラスタ動作無効化中	-	●	●	●					
rc	警告	1451	グループの自動起動が無効になっているため、グループの自動起動を抑制しました。	自動起動抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1452	グループリソース活性異常時の復旧動作が無効になっているため、リソースの復旧動作を抑制しました。	復旧動作抑制	-	●	●	●					
rc	警告	1453	グループリソース非活性異常時の復旧動作が無効になっているため、リソースの復旧動作を抑制しました。	復旧動作抑制	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1454	クラスタ動作を無効にしました。	クラスタ動作を無効化	-	●	●	●					
rc	情報	1455	クラスタ動作を有効にしました。	クラスタ動作を有効化	-	●	●	●					
rc	警告	1456	有効なライセンスが登録されていないため、クラスタ動作が強制的に無効化されます。	クラスタ動作強制無効化 (ライセンス無効)	ライセンスを登録してください。クラスタ動作の強制的な無効化の解除には、ライセンス登録後、最大 1 時間を要します。すぐに解除するには、ライセンス登録後、クラスタのサスペンド・リジュームを実行してください。	●	●	●					
rc	情報	1457	有効なライセンスが登録されたため、クラスタ動作の強制的な無効化が解除されました。	クラスタ動作強制無効化解除	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	警告	1458	サーバダウン時のフェイルオーバーが無効になっているため、グループのフェイルオーバーを抑制しました。	フェイルオーバー抑制	-	●	●	●					
rc	情報	1470	サーバ %1 をグループ %2 の起動先として設定しました (理由: %3)。	起動サーバ決定	-	●	●	●					
rc	警告	1471	グループ %1 の適切な起動先がありません (理由: %2)。	起動サーバ無し (クラスタ起動、フェイルオーバー)	他サーバで異常を検出しているモニタリソースがあります。異常の原因を取り除くか、監視の一時停止を行ってください。	●	●	●					
rc	警告	1472	サーバ %1 はグループ %2 を起動できる状態ではありません (理由: %3)。	起動サーバ無し (グループ起動)	該当のサーバで異常を検出しているモニタリソースがあります。異常の原因を取り除くか、監視の一時停止を行ってください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1480	グループ %1 の起動待ち 合わせに失敗 したため、グ ループの起 動は中止され ました (理由: %2)。	起動待ち合 わせ失敗 (グ ループ起動中 止)	-	●	●	●					
rc	警告	1481	グループ %1 の起動待ち合 わせに失敗し ました。しか し、グループ の起動は継続 されます (理 由: %2)。	起動待ち合 わせ失敗 (グ ループ起動継 続)	-	●	●	●					
rc	エラー	1482	グループ %1 の起動待ち合 わせが中止さ れたため、グ ループの起動 は中止されま した。	起動待ち合 わせ中止 (グ ループ起動中 止)	-	●	●	●					
rc	警告	1483	グループ %1 の起動待ち合 わせが中止さ れました。し かし、グループ の起動は継続 されます。	起動待ち合 わせ中止 (グ ループ起動継 続)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	エラー	1484	グループ %1 の停止待ち 合わせに失敗 したため、グ ループの停 止は中止され ました (理由: %2)。	停止待ち合 わせ失敗 (グ ループ停止中 止)	-	●	●	●					
rc	警告	1485	グループ %1 の停止待ち合 わせに失敗し ました。しか し、グループ の停止は継続 されます (理 由: %2)。	停止待ち合 わせ失敗 (グ ループ停止継 続)	-	●	●	●					
rc	エラー	1486	グループ %1 の停止待ち合 わせが中止さ れたため、グ ループの停止 は中止されま した。	停止待ち合 わせ中止 (グ ループ停止中 止)	-	●	●	●					
rc	警告	1487	グループ %1 の停止待ち合 わせが中止さ れました。し かし、グループ の停止は継続 されます。	停止待ち合 わせ中止 (グ ループ停止継 続)	-	●	●	●					
rc	情報	1490	グループ %1 の両系活性チ ェックを開始 しました。	両系活性チ ェック開始	-			●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rc	情報	1491	グループ %1 の両系活性チェックが完了しました。	両系活性チェック完了	-			●					
rc	エラー	1492	グループ %1 の両系活性チェックに失敗しました。	両系活性チェック失敗	グループの状態を確認してください。	●	●	●				●	
rc	情報	1493	両系活性チェックのため、グループ %1 の起動を待ち合わせています。	両系活性チェックのためグループ起動待ち合わせ	グループの状態を確認してください。	●	●	●					
rm	情報	1501	監視 %1 が起動しました。	監視起動	-	●	●	●					
rm	情報	1502	監視 %1 が停止しました。	監視停止	-	●	●	●					
rm	情報	1503	監視 %1 はこのサーバでは監視を行いません。	非対象サーバ	-	●	●	●					
rm	警告	1504	監視 %1 は警告の状態です。 (%2 : %3)	監視警告	警告の原因を確認してください。	●	●	●				●	
rm	警告	1505	監視リソース数が上限に達しています。(登録済みリソース数: %1)	モニタリソース数不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
rm	警告	1506	%1 の設定が有効ではありません。 (%2 : %3)	監視リソース不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	エラー	1507	監視 %1 の起動に失敗しました。	監視起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●	●	●		●	●
rm	エラー	1508	監視 %1 の停止に失敗しました。	監視停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	エラー	1509	監視 %1 は異常を検出しました。 (%2 : %3)	監視失敗	監視異常の原因を確認してください。	●	●	●	●	●		●	●
rm	情報	1510	監視 %1 は監視されません。	非監視	-	●	●	●					
rm	情報	1511	監視リソースは登録されていません。	未登録の監視リソース	-	●	●	●					
rm	情報	1512	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が停止されました。	回復対象停止	-	●	●	●					
rm	情報	1513	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が再起動されました。	回復対象再起動	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1514	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 がフェイルオーバーされました。	回復対象グループフェイルオーバー	-	●	●	●					
rm	情報	1515	監視 %1 が異常を検出したため、クラスタの停止が要求されました。	クラスタ停止	-	●	●	●					
rm	情報	1516	監視 %1 が異常を検出したため、システムのシャットダウンが要求されました。	システムシャットダウン	-	●	●	●					
rm	情報	1517	監視 %1 が異常を検出したため、システムの再起動が要求されました。	システム再起動	-	●	●	●					
rm	エラー	1518	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の停止は失敗しました。	回復対象停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●					●
rm	エラー	1519	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の再起動は失敗しました。	回復対象再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	エラー	1520	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 のフェイルオーバーは失敗しました。	回復対象グループ フェイルオーバー失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●				●	
rm	エラー	1521	監視 %1 の異常検出によるクラスタの停止は失敗しました。	クラスタ停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	エラー	1522	監視 %1 の異常検出によるシステムのシャットダウンは失敗しました。	OS シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	エラー	1523	監視 %1 の異常検出によるシステムの再起動は失敗しました。	os 再起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	エラー	1524	監視 %1 が所属するグループが不明です。	所属グループ不明	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
rm	警告	1525	回復対象 %1 が起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行	-	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1526	監視 %1 の状態が正常に復帰しました。	ステータス正常	-	●	●	●					
rm	情報	1527	監視 %1 の状態が不明になりました。	ステータス不明	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
rm	エラー	1528	監視の初期化でエラーが発生しました。 (%1 : %2)	プロセス初期化異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	情報	1529	監視 %1 を一時停止しました。	監視一時停止	-	●	●	●					
rm	情報	1530	監視 %1 を再開しました。	監視再開	-	●	●	●					
rm	情報	1531	全ての監視を一時停止しました。	全監視一時停止	-	●	●	●					
rm	情報	1532	全ての監視を再開しました。	全監視再開	-	●	●	●					
rm	情報	1533	監視 %1 のポーリング間隔は %2*%3 に更新されました。	ポーリング間隔変更	-	●	●	●					
rm	情報	1534	全ての監視のポーリング間隔は %1 に更新されました。	ポーリング間隔変更 (全監視)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1535	監視 %1 が異常を検出したため、意図的なストップエラーの発生が要求されました。	ストップエラーの発生	-	●	●	●					
rm	エラー	1536	監視 %1 の異常検出による意図的なストップエラーの発生は失敗しました。	ストップエラーの発生 失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
rm	警告	1537	サーバの状態が保留中のため回復動作は実行されませんでした。	回復動作無実行 (サーバ保留)	サーバの状態が保留 (NP 未解決) の場合は監視リソース回復動作は実行されません。保留 (NP 未解決) になった原因を確認し、NP リソースを正常な状態にしてください。	●	●	●				●	
rm	警告	1538	いずれの回復対象も起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行 (全グループ)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	警告	1539	回復対象 %1 の所属するグループが起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行 (グループ)	-	●	●	●					
rm	警告	1571	監視 %1 は遅延しています。 (timeout=%2, response time=%3, rate=%4)	監視遅延	監視遅延を検出したサーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。	●	●	●				●	
rm	警告	1572	監視 %1 は監視処理が実行できませんでした。	内部処理遅延	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
rm	警告	1600	シャットダウン回数が上限 (%1 回) に達しました。監視 %2 の最終動作は無視されます。	シャットダウン回数上限到達	-	●	●	●	●	●		●	●
rm	警告	1601	正常に稼動しているサーバが他に存在しないためモニタリソース %1 の異常検出による最終動作を抑制しました。	異常検出の最終動作の抑制	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1602	モニタリソース異常による再起動回数をリセットしました。	再起動回数リセット (モニタリソース)	-	●	●	●					
rm	情報	1700	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトを開始しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト開始	-	●	●	●					
rm	情報	1701	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトが完了しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト完了	-	●	●	●					
rm	情報	1720	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトが失敗しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト失敗	-	●	●	●					
rm	情報	1750	監視 %1 の異常検出を契機とした詳細情報の採取を開始しました。タイムアウトは %2 秒です。	詳細情報採取開始	-	●	●	●					
rm	情報	1751	監視 %1 の異常検出を契機とした詳細情報の採取が完了しました。	詳細情報採取完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	警告	1752	監視 %1 の異常検出を契機とした詳細情報の採取が失敗しました。 (%2)	詳細情報採取失敗	-	●	●	●					
rm	情報	1800	%1 サービスを開始します。	サービス開始	-	●	●	●					
rm	情報	1801	%1 サービスが停止されているため、開始します (リトライ回数: %2/%3)。	サービス開始リトライ	-	●	●	●					
rm	情報	1802	%1 サービスを再開します。	サービス再開	-	●	●	●					
rm	情報	1803	%1 サービスが一時停止されているため、再開します (リトライ回数: %2/%3)。	サービス再開リトライ	-	●	●	●					
rm	情報	1804	%1 サービスを停止します。	サービス停止	-	●	●	●					
rm	情報	1805	%1 サービスは実行中状態に移行しました。	サービス実行中状態	-	●	●	●					
rm	情報	1806	%1 サービスは停止状態に移行しました。	サービス停止状態 (正常)	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	警告	1811	%1 サービスの開始要求が失敗しました。サービスが開始されない可能性があります。	サービス開始要求失敗	サービスの状態を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1812	%1 サービスの再開要求が失敗しました。サービスが再開されない可能性があります。	サービス再開要求失敗	サービスの状態を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1813	%1 サービスの停止要求が失敗しました。サービスが停止されない可能性があります。	サービス停止要求失敗	サービスの状態を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1816	%1 サービスが停止しています。	サービス停止状態 (異常)	サービスが停止した原因を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1817	%1 サービスが一時停止しています。	サービス一時停止状態 (異常)	サービスが一時停止した原因を確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1819	%1 サービスの再起動回数がしきい値 %2 を超えています。	サービス再起動処理リトライオーバー	サービス再起動処理リトライオーバー	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1820	%1 サービス監視処理でエラーが発生したため、クラスタサービスを停止します。	クラスタサービス停止 (サービス監視エラー)	-	●	●	●					
rm	情報	1821	%1 サービス監視処理でエラーが発生したため、システムをシャットダウンします。	システムシャットダウン (サービス監視エラー)	-	●	●	●					
rm	情報	1822	%1 サービス監視処理でエラーが発生したため、システムを再起動します。	システム再起動 (サービス監視エラー)	-	●	●	●					
rm	エラー	1870	ライセンス不正のため、監視 %1 を操作できません。	操作不可 (ライセンス不正)	ライセンスの登録状況を確認してください。	●	●	●					
rm	情報	1890	監視 %1 が異常を検出したため、回復スクリプトが実行されました。	回復スクリプト完了	-	●	●	●					
rm	エラー	1891	監視 %1 の異常検出による回復スクリプトの実行は失敗しました。	回復スクリプト失敗	回復スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	エラー	1892	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザログオン失敗	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。	●	●	●					
rm	情報	1910	監視 %1 の擬似障害が発生しました。	擬似障害発生	-	●	●	●					
rm	情報	1911	監視 %1 の擬似障害を解除しました。	擬似障害解除	-	●	●	●					
rm	情報	1912	全モニタリソースで擬似障害が発生します。	全モニタリソースの擬似障害発生	-	●	●	●					
rm	情報	1913	全モニタリソースの擬似障害を解除します。	全モニタリソースの擬似障害解除	-	●	●	●					
rm	警告	1914	監視 %1 の擬似障害の発生に失敗しました。	擬似障害発生失敗	モニタリソース %1 が障害検証機能に対応しているか確認してください。	●	●	●					
rm	警告	1915	監視 %1 の擬似障害の解除に失敗しました。	擬似障害解除失敗	モニタリソース %1 が障害検証機能に対応しているか確認してください。	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
rm	情報	1930	モニタリソース異常時の回復動作を無効にしました。	モニタリソース異常時回復動作無効	-	●	●	●					
rm	情報	1931	モニタリソース異常時の回復動作を有効にしました。	モニタリソース異常時回復動作有効	-	●	●	●					
rm	警告	1932	モニタリソース異常時の回復動作が無効になっているため、監視 %1 の回復動作は無視されました。	回復動作無実行 (回復動作抑制中)	-	●	●	●					
rm	警告	1933	タイムアウト発生時の回復動作が無効であるため、監視 %1 の回復動作は実行されませんでした。	モニタリソースタイムアウト時回復動作無効	-	●	●	●					
event	情報	2101	%1 サービスが開始されました。	サービス開始	-		●						
event	情報	2102	%1 サービスが停止されました。	サービス停止	-		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
event	警告	2130	内部スレッドの終了待ちでタイムアウト、またはその他異常が発生しました。内部エラー %1 を検出しました。	終了待ちタイムアウト	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●					●	
event	エラー	2150	不正なパラメータが指定されました。パラメータを確認してください。	構成情報異常	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●					●	
event	エラー	2151	ポリシー情報の取得に失敗しました。ポリシーファイルの存在または、構成内容を確認してください。	構成情報異常	ポリシーファイルの存在または、構成内容を確認してください。	●	●					●	
event	エラー	2152	レジストリ情報の取得に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	レジストリ異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
event	エラー	2153	サービスマネージャへのディスパッチに失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	ディスパッチ異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2154	内部リソースの作成に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	リソース生成失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2155	通信ソケットの作成に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	ソケット生成失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2156	共有メモリの制御に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	共有メモリ制御失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
event	エラー	2157	内部スレッドの生成に失敗しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	スレッド生成失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2158	ログ保存期間設定の初期化に失敗しました。ログ保存期間設定が無効の状態ですシステムを起動します。	ログ保存期間設定初期化失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
event	エラー	2199	その他、内部エラーが発生しました。システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	内部エラー	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります	●	●					●	
trnsv	エラー	2301	%1 から通知を受付ましたが、許可されませんでした。	クライアント IP アドレスによる接続制限	接続を許可するクライアント IP アドレスを確認してください。	●	●	●					
trnsv	情報	2310	%2 から通知 (%1) を受け付けました。	外部から異常発生通知を受信	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
trnsv	情報	2320	外部通知により監視 %2 の異常時動作 (%1) の実行を開始しました。	異常発生時の回復動作を実行	-	●	●	●					
trnsv	情報	2321	監視 %2 の異常時動作 (%1) が成功しました。	異常発生時の回復動作が完了	-	●	●	●					
trnsv	エラー	2322	監視 %2 の異常時動作 (%1) を実行しましたが、失敗しました。	異常発生時の回復動作が失敗	回復動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	●					
trnsv	情報	2330	動作 (%1) の実行に成功しました。	要求された動作が完了	-	●	●	●					
trnsv	エラー	2331	動作 (%1) を実行しましたが、失敗しました。	要求された動作が失敗	要求された動作が実行可能な環境か確認してください。	●	●	●					
trnsv	情報	2340	監視 (%1) の異常時動作前スクリプトを実行しました。	スクリプトの実行を開始	-	●	●	●					
trnsv	情報	2341	監視 (%1) の異常時動作前スクリプトの実行に成功しました。	スクリプトの実行が完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
trnsv	エラー	2342	監視 (%1) の異常時動作前スクリプトの実行に失敗しました。	スクリプトの実行が失敗	スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
trnsv	エラー	2350	リジュームに失敗したため、システムをシャットダウンします。	リジューム失敗によるシャットダウン	-	●	●	●					
trnsv	エラー	2351	システムのシャットダウンに失敗しました。	シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
trnsv	エラー	2360	ログ保存先 %1 が見つかりません。	ログ保存先取得失敗	指定した保存先が存在することを確認してください。	●	●	●					
trnsv	エラー	2361	ログ保存先にインストールパス配下のパスが指定されています。	ログ保存先不正	ログ保存先にインストールパス配下のパスを指定しないでください。	●	●	●					
lankhb	エラー	2851	サーバ %1 でキープアライブタイムアウトが検出されました。	キープアライブタイムアウト	キープアライブタイムアウトを検出したサーバが存在しています。サーバの障害を取り除いてください。	●	●						●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
lankhb	エラー	2852	サーバ %1 で STOP エラーが発生しました。(ソース:%2, 終了コード:%3)	STOP エラー	STOP エラーが発生したサーバが存在しています。サーバの障害を取り除いてください。	●	●	●					
lankhb	エラー	2853	サーバ %1 でハードウェアリセットが発生しました。(ソース:%2, 終了コード:%3)	ハードウェアリセット	ハードウェアリセットが発生したサーバが存在しています。サーバの障害を取り除いてください。	●	●	●					
ptun	警告	3301	パラメータ (%1) がしきい値 (%2 パーセント) を超えました。タイムアウト値=%3 データ=%4	遅延警告	パラメータがしきい値を超えています。パラメータを適正な値に設定してください。	●	●	●				●	
ptun	警告	3302	パラメータ (%1) がしきい値 (%2 パーセント) を超えました。タイムアウト値=%3 データ=%4 サーバ=%5 リソース=%6	遅延警告	パラメータがしきい値を超えています。パラメータを適正な値に設定してください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
lcns	情報	3551	試用期間は %1 までです。 (製品名:%2)	試用版ライセンス (正常)	-	●	●						
lcns	エラー	3552	試用期間が %1 に切れしました。(製品名:%2)	試用版ライセンス (期限切れ)	ライセンスを登録してください。	●	●	●				●	
lcns	警告	3553	ライセンスが不足しています。不足ライセンス数は %1 です。(製品名:%2)	ライセンス不足	ライセンスを登録してください。	●	●					●	
lcns	エラー	3554	ライセンスが登録されていません。(製品名:%1)	ライセンス未登録	ライセンスを登録してください。	●	●	●				●	
lcns	エラー	3555	同じライセンスが他のサーバで登録されています。(製品名:%1)	ライセンス重複登録	重複ライセンスを削除してください。	●	●	●				●	
lcns	エラー	3556	このサーバの製造元、型番が不正です。	製造元、型番不正	製造元、型番を確認してください。	●	●	●				●	
lcns	エラー	3558	登録されているライセンスが無効な状態です。 (製品名:%1、シリアルナンバー:%2)	ライセンス無効	有効なライセンスを登録してください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
lcns	情報	3559	期限付きライセンスの有効期間は %1 までです。(製品名:%2)	期限付きライセンス (正常)	-	●	●						
lcns	エラー	3560	期限付きライセンスの有効期間は %1 で切れました。(製品名:%2)	期限付きライセンス (期限切れ)	ライセンスを登録してください。	●	●	●				●	
logcmd	情報	3601		ログコマンド	-	●	×	×	×	×	×	×	×
diskw	警告	3701	監視 %1 は遅延しています。(timeout=%2 response time=%3 rate=%4)	監視遅延	-	●	●	●				●	
userw	警告	3711	監視 %1 は遅延しています。(timeout=%2 response time=%3 rate=%4)	監視遅延	-	●	●	●				●	
mail	エラー	4101	メール通報が失敗しました (%1)。(SMTP サーバ: %2)	メール通報失敗	SMTP サーバにエラーが発生していないか、あるいは SMTP サーバとの通信に問題がないか確認してください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mail	情報	4102	メール通報が成功しました。(SMTPサーバ: %1)	メール通報成功	-		●	●					
apisv	情報	4301	%1(IP=%2)よりクラスタ停止が要求されました。	クラスタ停止	-	●		●					
apisv	情報	4302	%1(IP=%2)よりクラスタシャットダウンが要求されました。	クラスタシャットダウン	-	●		●					
apisv	情報	4303	%1(IP=%2)よりクラスタ再起動が要求されました。	クラスタ再起動	-	●		●					
apisv	情報	4304	%1(IP=%2)よりクラスタサスペンドが要求されました。	クラスタサスペンド	-	●		●					
apisv	情報	4310	%1(IP=%2)よりクラスタサービスの停止が要求されました。	クラスタサービス停止	-	●		●					
apisv	情報	4311	%1(IP=%2)よりサーバのシャットダウンが要求されました。	シャットダウン	-	●		●					
apisv	情報	4312	%1(IP=%2)よりサーバの再起動が要求されました。	再起動	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4330	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の起動が要求されました。	グループ起動	-	●		●					
apisv	情報	4331	%1(IP=%2)より全グループの起動が要求されました。	全グループ起動	-	●		●					
apisv	情報	4332	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の停止が要求されました。	グループ停止	-	●		●					
apisv	情報	4333	%1(IP=%2)より全グループの停止が要求されました。	全グループ停止	-	●		●					
apisv	情報	4334	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の再起動が要求されました。	グループ再起動	-	●		●					
apisv	情報	4335	%1(IP=%2)より全グループの再起動が要求されました。	全グループ再起動	-	●		●					
apisv	情報	4336	%2(IP=%3)よりグループ(%1)の移動が要求されました。	グループ移動	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4337	%1(IP=%2)より全グループの移動が要求されました。	全グループ移動	-	●		●					
apisv	情報	4338	%2(IP=%3)よりグループ(%1)のフェイルオーバーが要求されました。	グループフェイルオーバー	-	●		●					
apisv	情報	4339	%1(IP=%2)より全グループのフェイルオーバーが要求されました。	全グループフェイルオーバー	-	●		●					
apisv	情報	4340	%2(IP=%3)よりグループ(%1)のマイグレーションが要求されました。	グループマイグレーション	-	●		●					
apisv	情報	4341	%1(IP=%2)より全グループのマイグレーションが要求されました。	全グループマイグレーション	-	●		●					
apisv	情報	4342	%1(IP=%2)より全グループのフェイルオーバーが要求されました。	全グループフェイルオーバー	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4343	%1 からグループ %2 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセル要求がありました。	待ち合わせキャンセル	-	●		●					
apisv	情報	4350	%2(IP=%3) よりリソース(%1) の開始が要求されました。	リソース開始	-	●		●					
apisv	情報	4351	%1(IP=%2) より全リソースの開始が要求されました。	全リソース開始	-	●		●					
apisv	情報	4352	%2(IP=%3) よりリソース(%1) の停止が要求されました。	リソース停止	-	●		●					
apisv	情報	4353	%1(IP=%2) より全リソースの停止が要求されました。	全リソース停止	-	●		●					
apisv	情報	4354	%2(IP=%3) よりリソース(%1) の再起動が要求されました。	リソース再起動	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	情報	4355	%1(IP=%2)より全リソースの再起動が要求されました。	全リソース再起動	-	●		●					
apisv	情報	4360	%1(IP=%2)より監視の一時停止が要求されました。	監視一時停止	-	●		●					
apisv	情報	4361	%1(IP=%2)より監視の再開が要求されました。	監視再開	-	●		●					
apisv	情報	4362	%2(IP=%3)より監視 %1の擬似障害開始が要求されました。	擬似障害開始	-	●		●					
apisv	情報	4363	%2(IP=%3)から監視 %1の擬似障害停止が要求されました。	擬似障害停止	-	●		●					
apisv	情報	4364	%1(IP=%2)から全監視の擬似障害停止が要求されました。	全擬似障害停止	-	●		●					
apisv	エラー	4401	クラスタ停止要求が失敗しました (%1)。	クラスタ停止失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4402	クラスタシャットダウン要求が失敗しました (%1)。	クラスタシャットダウン失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4403	クラスタ再起動要求が失敗しました (%1)。	クラスタ再起動失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4404	クラスタサスペンド要求が失敗しました (%1)。	クラスタサスペンド失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4410	クラスタサービスの停止要求が失敗しました (%1)。	クラスタサービス停止失敗	クラスタの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4411	サーバのシャットダウン要求が失敗しました (%1)。	サーバシャットダウン失敗	サーバの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4412	サーバの再起動要求が失敗しました (%1)。	サーバ再起動失敗	サーバの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4430	グループ (%1) の開始要求が失敗しました (%2)。	グループ開始失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4431	全グループの開始要求が失敗しました (%1)。	全グループ開始失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4432	グループ (%1) の停止要求が失敗しました (%2)。	グループ停止失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4433	全グループの停止要求が失敗しました (%1)。	全グループ停止失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4434	グループ (%1) の再起動要求が失敗しました (%2)。	グループ再起動失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4435	全グループの再起動要求が失敗しました (%1)。	全グループ再起動失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4436	グループ (%1) の移動要求が失敗しました (%2)。	グループ移動失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4437	全グループの移動要求が失敗しました (%1)。	全グループ移動失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4438	グループ (%1) のフェイルオーバー要求が失敗しました (%2)。	グループフェイルオーバー失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4439	全グループのフェイルオーバー要求が失敗しました (%1)。	全グループフェイルオーバー失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4440	グループ (%1) のマイグレーション要求が失敗しました (%2)。	グループマイグレーション失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4441	全グループのマイグレーション要求が失敗しました (%1)。	全グループマイグレーション失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4442	全グループのフェイルオーバー要求が失敗しました (%1)。	全グループフェイルオーバー失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4443	グループ %1 の依存先グループ待ち合わせ処理のキャンセル要求が失敗しました。	待ち合わせキャンセル失敗	グループの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4450	リソース (%1) の開始要求が失敗しました (%2)。	リソース開始失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4451	全リソースの開始要求が失敗しました (%1)。	全リソース開始失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4452	リソース (%1) の停止要求が失敗しました (%2)。	リソース停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4453	全リソースの停止要求が失敗しました (%1)。	全リソース停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4454	リソース (%1) の再起動要求が失敗しました (%2)。	リソース再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4455	全リソースの再起動要求が失敗しました (%1)。	全リソース再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
apisv	エラー	4460	監視の一時停止要求が失敗しました (%1)。	監視一時停止失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4461	監視の再開要求が失敗しました (%1)。	監視再開失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4462	監視 %1 の擬似障害開始が失敗しました (%2)。	擬似障害開始失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4463	監視 %1 の擬似障害停止が失敗しました (%2)。	擬似障害停止失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4464	全監視の擬似障害停止が失敗しました (%1)。	全擬似障害停止失敗	監視リソースの状態を確認してください。	●		●					
apisv	エラー	4480	内部通信 (%1) の初期化に失敗しました (port=%2)。	内部通信初期化失敗	内部通信の初期化に失敗しました。 CLUSTERPRO 以外のアプリケーションが該当のポートを使用していないか確認してください。	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
userw	警告	5001	監視 %1 は遅延しています。 (timeout=%2 response time=%3 rate=%4)	監視遅延	-	●	●	●					●
genw	警告	5151	対象スクリプト (%1) の消滅を検出したため、再起動しました。 (%2)	対象スクリプト再起動 %1: スクリプト名 %2: モニタリソース名	-	●	●						
db2 ftp http imap4 odbc oracle otx pop3 psql smtp sqlserver tux was wls	警告	10001	%1	各被監視アプリケーションのエラーメッセージです。	メッセージを元にアプリケーションの障害を調査してください。	●	×	×	×	×	×	×	×

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
db2w ftpw httpw imap4w odbcw oraclew otxw pop3w psqlw smtpw sqlserverw tuxw wasw wls db2 ftp http imap4 odbc oracle otx pop3 psql smtp sqlserver tux was wls	警告	10002	Windows の API エラーが発生しました.%1	アプリケーション監視時に Windows の API で障害が起きました。%1 は API のエラーコードです。	エラーコードを元に OS の障害を取り除いてください。	●	×	×	×	×	×	×	×

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	警告	4901	監視 %1 は警告の状態です。 (%2 : %3)	監視警告	警告の原因を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	警告	4902	%1 の設定が有効ではありません。 (%2 : %3)	監視リソース不正	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4903	監視 %1 の起動に失敗しました。	監視起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●	●	●		●	●
mrw	エラー	4904	監視 %1 の停止に失敗しました。	監視停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4905	監視 %1 は異常を検出しました。 (%2 : %3)	監視失敗	監視異常の原因を確認してください。	●	●	●	●	●		●	●
mrw	情報	4906	監視リソースは登録されていません。	未登録の監視リソース	-	●	●	●					
mrw	情報	4907	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が停止されました。	回復対象停止	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュール タイプ	イベン ト分類	イベン ト ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	情報	4908	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 が再起動されました。	回復対象再起動	-	●	●	●					
mrw	情報	4909	監視 %2 が異常を検出したため、回復対象 %1 がフェイルオーバーされました。	回復対象グループフェイルオーバー	-	●	●	●					
mrw	情報	4910	監視 %1 が異常を検出したため、クラスタの停止が要求されました。	クラスタ停止	-	●	●	●					
mrw	情報	4911	監視 %1 が異常を検出したため、システムのシャットダウンが要求されました。	システムシャットダウン	-	●	●	●					
mrw	情報	4912	監視 %1 が異常を検出したため、システムの再起動が要求されました。	システム再起動	-	●	●	●					
mrw	エラー	4913	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の停止は失敗しました。	回復対象停止失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	エラー	4914	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 の再起動は失敗しました。	回復対象再起動失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4915	監視 %2 の異常検出による回復対象 %1 のフェイルオーバーは失敗しました。	回復対象グループフェイルオーバー失敗	リソースの状態を確認してください。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4916	監視 %1 の異常検出によるクラスタの停止は失敗しました。	クラスタ停止失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4917	監視 %1 の異常検出によるシステムのシャットダウンは失敗しました。	OS シャットダウン失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4918	監視 %1 の異常検出によるシステムの再起動は失敗しました。	os 再起動失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●				●	
mrw	エラー	4919	監視 %1 が所属するグループが不明です。	所属グループ不明	クラスタ構成情報を確認してください。	●	●	●				●	

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	警告	4920	回復対象 %1 が起動状態ではないため、回復動作は実行されません。	回復動作無実行	-	●	●	●					●
mrw	情報	4921	監視 %1 の状態が正常に復帰しました。	ステータス正常	-	●	●	●					
mrw	情報	4922	監視 %1 の状態が不明になりました。	ステータス不明	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					
mrw	エラー	4923	監視の初期化でエラーが発生しました。 (%1 : %2)	プロセス初期化異常	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●
mrw	情報	4924	監視 %1 が異常を検出したため、意図的なストップエラーの発生が要求されました。	ストップエラーの発生	-	●	●	●					
mrw	エラー	4925	監視 %1 の異常検出による意図的なストップエラーの発生は失敗しました。	ストップエラーの発生失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●	●					●

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	警告	4926	サーバの状態が保留中のため回復動作は実行されませんでした。	回復動作無実行 (サーバ保留)	サーバの状態が保留 (NP 未解決) の場合は監視リソース回復動作は実行されません。保留 (NP 未解決) になった原因を確認し、NP リソースを正常な状態にしてください。	●	●	●					●
mrw	警告	4927	シャットダウン回数が上限 (%1 回) に達しました。監視 %2 の最終動作は無視されます。	シャットダウン回数上限到達	-	●	●	●	●	●			● ●
mrw	情報	4928	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトを開始しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト開始	-	●	●	●					
mrw	情報	4929	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトが完了しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト完了	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
mrw	情報	4930	モニタリソース %2 の異常時回復動作 (%1) 前スクリプトが失敗しました。	モニタリソース異常時最終動作前スクリプト失敗	-	●	●	●					
mrw	情報	4931	監視 %1 が異常を検出したため、回復スクリプトが実行されました。	回復スクリプト完了	-	●	●	●					
mrw	エラー	4932	監視 %1 の異常検出による回復スクリプトの実行は失敗しました。	回復スクリプト失敗	回復スクリプトが失敗した原因を確認し、対処を行ってください。	●	●	●					
mrw	警告	4933	モニタリソース異常時の回復動作が無効になっているため、監視 %1 の回復動作は無視されました。	モニタリソース異常時の回復動作を抑制しているため、回復動作は実行されません。	-	●	●	●					
mrw	情報	4934	外部より通知 (%1) を受け付けました。(詳細情報: %2)	外部から異常発生通知を受信	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
tuxw	警告	10004	アプリケーションの API エラーが発生しました.%1	アプリケーション監視時にアプリケーションの API で障害が起きました。%1 は API のエラーコードです。	エラーコードを元にアプリケーションの障害を調査してください。	●							
jra	エラー	20251	内部処理に失敗しました。(%1)	内部エラーが発生しました。 %1:内部エラーコード	JVM 監視リソースが動作していることを確認してください。JVM 監視リソースが起動していない場合は、サーバを再起動してください。		●						
jra	エラー	20252	設定値誤りにより起動に失敗しました。(%1)	指定された設定値が不正です。 %1:内部エラーコード	設定した Java インストールパスが正しいか確認してください。		●						
sra	エラー	20301	設定ファイル読み込みに失敗したため、サービスが停止しました。	設定ファイルの読み込み処理で異常がありました。	別途出力されているメッセージを確認してください		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20302	インストールフォルダ名を取得できませんでした。	インストールフォルダ名の取得に失敗しました。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●						
sra	エラー	20305	いくつかのモジュールの読み込みに失敗しました。	本製品の実行に必要なファイルの一部が存在しないため、起動することができませんでした。	本製品をインストールしなおしてください。		●						
sra	エラー	20306	予期せぬエラーが発生しました。	本製品を起動しようとしたが、何らかの理由により起動することができませんでした。	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●						
sra	エラー	20307	内部エラーが発生しました。	本製品が異常終了しました。	直前に出力されているシステムログメッセージを参照してください。		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20308	WMI の発行でエラーが発生しました。 (%1、エラー ID: 0x%2、クラス名: %3) %1 : メッセージ %2 : エラーコード %3 : 取得できなかった情報	統計情報が取得できませんでした。 %1 : メッセージ %2 : エラーコード %3 : 取得できなかった情報	クラスタを再起動するかサスペンド・リジュームを実行してください。		●						
sra	警告	20336	スクリプトがタイムアウトしました。 (%1 %2) %1:スクリプトファイル名 %2 : 引数	内部エラーが発生しました。	サーバの負荷状況を確認し、負荷を取り除いてください。		●						
sra	情報	20346	%1 イベントに成功しました。 %1 : イベント種別 (Boot、Shutdown、Stop、Start、Flush)	運用管理コマンドを実行しました。 %1 は実行したイベント種別 (Boot、Shutdown、Stop、Start、Flush) が出力されます。	-		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	警告	20347	%1 が %2 より小さい値であったため、%2(%3) の値に変更しました。	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20348	%1 が %2 と比較し制限値を超えていたため、%2 を %3 に変更しました。	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20349	%1 が %2 より小さかったため、%2(%3) に変更しました。(%4)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値 %4 : モニタリソース名	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	警告	20350	%1 が %2 より大きかったため、%2(%3)に変更しました。(%4)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定項目 %3 : 設定値 %4 : モニタリソース名	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20351	%1 がディスク総容量を超えています。(%2 %3)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : モニタリソース名 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20352	%1 がディスク総容量を超えています。(%2 %3)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : モニタリソース名 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	警告	20353	ディスク監視対象リストから MOUNT[%1] を削除しました (%2)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定値 %2 : モニタリソース名	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20354	%1 に不正な値 (%2) が設定されています。 (%3)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : 設定値 %3 : モニタリソース名	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						
sra	警告	20355	%1 に指定されたドライブのドライブ種別が固定ディスクではありません。 (%2 ドライブレター=%3)	監視の設定値が正しくありません。 %1 : 設定項目 %2 : モニタリソース名 %3 : 設定値	Cluster WebUI で設定値を確認してください。		●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (%1 type = cpu, pid = %2, %3)。	特定プロセスの CPU 使用率監視で異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名 %2 : プロセス ID %3 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (%1 type = memory leak, pid = %2, %3)。	特定プロセスのメモリ使用量監視で異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名 %2 : プロセス ID %3 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (%1 type = file leak, pid = %2, %3)。	<p>特定プロセスのオープンファイル数監視で異常を検出しました。</p> <p>%1 : モニタリソース名</p> <p>%2 : プロセス ID</p> <p>%3 : プロセス名</p>	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (%1 type = thread leak, pid = %2, %3)。	<p>特定プロセスのスレッド数監視で異常を検出しました。</p> <p>%1 : モニタリソース名</p> <p>%2 : プロセス ID</p> <p>%3 : プロセス名</p>	監視異常の原因を確認してください。	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20358	プロセスリソース異常を検出しました (%1 type = same name process, pid = %2, %3)。	同一名プロセス監視で異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名 %2 : プロセス ID %3 : プロセス名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20359	システムリソース異常を検出しました (%1 type = cpu)。	システムの CPU 使用率監視で異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20359	システムリソース異常を検出しました (%1 type = memory)。	システムの総メモリ使用量監視で異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20359	システムリソース異常を検出しました (%1 type = swap)。	システムの総仮想メモリ使用量監視で異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出しました (%1 type = used rate, level = NO-TICE, %2)。	ディスク使用率監視で通知レベルの異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名 %2 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出しました (%1 type = used rate, level = WARNING, %2)。	ディスク使用率監視で警告レベルの異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名 %2 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出した (%1 type = free space, level = NO-TICE, %2)。	ディスク空き容量監視で通知レベルの異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名 %2 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
sra	エラー	20360	ディスクリソース異常を検出した (%1 type = free space, level = WARNING, %2)。	ディスク空き容量監視で警告レベルの異常を検出しました。 %1 : モニタリソース名 %2 : 論理ドライブ	監視異常の原因を確認してください。	●	●						
webmgr	警告	5121	HTTPS の設定が正しくないため、HTTPS で WebManager を利用できません。WebManager へは HTTP で接続してください。	HTTPS 設定不正	-	●	●	●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
log	エラー	5351	ログ保存期間設定の初期化処理に失敗しました。ログが欠落している可能性があります。 (type=%1)	ログ保存期間設定初期化失敗	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●	●					●	
SSS	エラー	20004	システムドライブ文字の取得が失敗しました。	システムドライブ文字の取得が失敗しました。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。			●					
SSS	エラー	20005	サーバ名の取得が失敗しました。	サーバ名の取得が失敗しました。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。			●					
SSS	情報	20006	サーバ名が更新されました。	サーバ名が更新されました。	-	●		●					
SSS	エラー	20007	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	コンフィグファイルの更新が失敗しました。	構成情報を確認してください。	●		●					
SSS	情報	20008	コンフィグファイルが更新されました。	コンフィグファイルが更新されました。	-			●					
SSS	エラー	20009	コンフィグファイルの内容が不正です。	コンフィグファイルの内容が不正です。	構成情報を確認してください。			●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
sss	エラー	20010	%1 サービスが開始できませんでした。	%1 サービスが開始できませんでした。	システムが正しく動作できない状態になっている可能性があります。	●		●					
sss	情報	20012	%1 サービスが開始されました。	%1 サービスが開始されました。	-			●					
sss	情報	20013	%1 サービスが停止されました。	%1 サービスが停止されました。	-			●					
sss	情報	20014	LAN ボードの二重化モジュールが起動されました。	LAN ボードの二重化モジュールが起動されました。	メモリ不足または、OS のリソース不足が考えられます。確認してください。			●					
sss	エラー	20015	LAN ボードの二重化モジュールが起動されませんでした。	LAN ボードの二重化モジュールが起動されませんでした。	-	●		●					
ncctl	エラー	20101	LAN ボード %1 の異常を検出しました。	LAN ボード %1 の異常を検出しました。	待機中の LAN ボードの設定が適切であるかどうか確認してください。	●		●					
ncctl	警告	20102	LAN ボード %1 を LAN ボード %2 に切り替えます。	LAN ボード %1 を LAN ボード %2 に切り替えます。	-	●		●					

次のページに続く

表 4.3 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	イベント分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処	1	2	3	4	5	6	7	8
ncctl	エラー	20103	LAN ボード %1 の操作に 失敗しました。	LAN ボード %1 の操作に 失敗しました。	-	●		●					

4.3 ドライブイベントログメッセージ

4.3.1 カーネルモード **LAN** ハートビートドライバ

以下のイベントはシステムイベントログにソース "clphb" で記録されます。

イベント 分類	イベント ID	メッセージ	説明	対処
エラー	3001	ドライバ内部で致命的エラーが発生しました。	ドライバ内部で致命的エラーが発生しました。	カーネルメモリ不足・OS リソース不足が考えられます。 パフォーマンスモニタ で確認してください。
情報	1001	キープアライブタイムアウトにより緊急シャットダウンイベントをシグナル状態にセットしました。	ユーザ空間がストール状態 です。	メモリ不足・OS リソース 不足が考えられます。確認 してください。
情報	1002	FILTER 口閉じのアクションにより緊急シャットダウンイベントをシグナル状態にセットしました。	FILTER 口閉じのアクション を受け取りました。	カーネルメモリ不足・OS リソース不足が考えられます。 パフォーマンスモニタ で確認してください。

4.4 グループリソース活性/非活性時の詳細情報

以下の情報はリソース活性/非活性処理が失敗した際にイベントログやアラートログに記録されるメッセージの文中に詳細情報として表示されます。

4.4.1 アプリケーションリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
appli	エラー	5	アプリケーションのパスが不正です。	アプリケーションのパスが不正です。	アプリケーションのパスが正しいか確認してください。
appli	エラー	7	アプリケーションの起動に失敗しました。	アプリケーションの起動に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
appli	エラー	8	アプリケーションの停止に失敗しました。	アプリケーションの停止に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
appli	エラー	10	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	アプリケーションがタイムアウト時間以内に終了するか確認してください。
appli	エラー	11	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。
appli	エラー	12	終了コード %1 を返しました。	非常駐タイプのアプリケーションが不正な終了コードを返却しました。	アプリケーションが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。

次のページに続く

表 4.5 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
appli	エラー	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.2 スクリプトリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
script	エラー	6	開始スクリプトの起動に失敗しました。	開始スクリプトの起動に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
script	エラー	7	終了スクリプトの起動に失敗しました。	終了スクリプトの起動に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
script	エラー	8	終了コード %1 を返しました。	同期タイプのスクリプトが不正な終了コードを返却しました。	スクリプトが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。
script	エラー	9	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	スクリプトがタイムアウト時間以内に終了するか確認してください。
script	エラー	10	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。

次のページに続く

表 4.6 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
script	エラー	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.4.3 サービスリソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
service	エラー	5	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス名が正しいか確認してください。
service	エラー	6	サービスの起動に失敗しました。	サービスの起動に失敗しました。	サービスの状態を確認してください。
service	エラー	7	サービスの停止に失敗しました。	サービスの停止に失敗しました。	サービスの状態を確認してください。
service	エラー	8	サービスは既に起動しています。	サービスは既に起動しています。	サービスの状態を確認してください。サービスが起動済みの場合、エラーとしない設定をすることも可能です。
service	エラー	10	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	サービスがタイムアウト 時間以内に開始/停止するか確認してください。

次のページに続く

表 4.7 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
service	エラー	13	起動中のサービスに関連付けられているコンピュータ名が、対象 VCOM リソースの仮想コンピュータ名と異なります。	起動中のサービスに関連付けられているコンピュータ名が、対象 VCOM リソースの仮想コンピュータ名と異なります。	複数のサービスリソースに、同じサービスを設定する場合は、対象 VCOM リソース名を設定しないでください。
service	エラー	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5 モニタリソース異常時の詳細情報

以下の情報はモニタリソースが異常を検出した際にイベントログやアラートログに記録されるメッセージの文中に詳細情報として表示されます。

4.5.1 アプリケーション監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
appliw	エラー	9	プロセスが存在しませんでした。(終了コード: %1)	プロセスが存在しませんでした。(終了コードについては取得できた場合のみ表示します。)	監視対象アプリケーションリソースのプロセスが何らかの原因により消滅しました。確認して下さい。
appliw	エラー	11	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。
appliw	警告	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.2 DB2 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
db2w	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。	OS 自体が異常状態になっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。
db2w	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
db2w	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
db2w	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
db2w	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
db2w	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.9 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
db2w	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。
db2w	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に 双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
db2w	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
db2w	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
db2w	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.3 ディスク RW 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	5	ファイルオープン処理に失敗しました。	ファイルオープン処理に失敗しました。	<p>監視対象ディスクのデバイスドライバがロードされているか、監視対象ディスクのデバイスが存在するか、監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。</p> <p>メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。</p>

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	6	ファイル書き込み処理に失敗しました。	ファイル書き込み処理に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	7	ファイルのディスク同期 処理に失敗しました。	ファイルのディスク同期 処理に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	8	ファイルクローズ処理に失敗しました。	ファイルクローズ処理に失敗しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	71	ファイルオープン処理で タイムアウトを検出しました。	ファイルオープン処理で タイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	72	ファイル書き込み処理でタイムアウトを検出しました。	ファイル書き込み処理でタイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	エラー	73	ファイルのディスク同期処理でタイムアウトを検出しました。	ファイルのディスク同期処理でタイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	エラー	74	ファイルクローズ処理で タイムアウトを検出しました。	ファイルクローズ処理で タイムアウトを検出しました。	監視対象ディスクが正しく接続されているか、監視対象ディスクの電源が [ON] になっているか、あるいは監視対象ディスクにその他の異常が発生していないか確認してください。 システム高負荷、メモリ 不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	100	キープアライブドライバの初期化処理でキープアライブの追加に失敗しました。	キープアライブドライバの初期化処理でキープアライブの追加に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	101	ディスクに十分な空き容量がありません。	ディスクに十分な空き容量がありません。	監視対象ディスクの空き容量を確保してください。
diskw	警告	102	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	103	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ 不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.10 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
diskw	警告	104	メモリ領域の確保に失敗しました。	メモリ領域の確保に失敗しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	105	その他内部異常を検出しました。	その他内部異常を検出しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。
diskw	警告	190	内部リソースの初期化異常が発生しました。	内部リソースの初期化異常が発生しました。	メモリ不足またはOSのリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.4 FTP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ftpw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.11 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ftpw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	ユーザ認証に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
ftpw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
ftpw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
ftpw	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
ftpw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
ftpw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.11 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ftpw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.5 カスタム監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	エラー	5	スクリプトの起動に失敗しました。	スクリプトの起動に失敗した。	スクリプトが起動可能か確認してください。
genw	エラー	6	スクリプトが存在しませんでした。	非同期タイプのスクリプトが異常終了しました	スクリプトが終了した原因を確認してください。
genw	エラー	8	終了コード %1 を返しました。	同期タイプのスクリプトが不正な終了コードを返却しました。	スクリプトが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。
genw	エラー	9	ユーザのログオンに失敗しました。	ユーザのログオンに失敗しました。	実行ユーザのドメイン、アカウント、パスワードが正しく設定されているか確認してください。

次のページに続く

表 4.12 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
genw	警告	100	スクリプトの起動に失敗しました。	スクリプトの起動に失敗した。	スクリプトが起動可能か確認してください。
genw	警告	100	終了コード %1 を返しました。	同期タイプのスクリプトが不正な終了コードを返却しました。	スクリプトが不正な終了コードを返却した原因を確認してください。
genw	警告	110	警告値を返しました (%1)。	同期タイプのスクリプトが警告値を返却しました。	スクリプトが警告値を返却した原因を確認してください。
genw	警告	100 または 190	スクリプトのパスが不正です。	スクリプトのパスが不正です。	Cluster WebUI で設定値を確認してください。
genw	警告	100 または 190	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
genw	警告	190	パラメータが不正です。	監視の設定値が不正です。	Cluster WebUI で設定値を確認してください。
genw	警告	190	リソースがクラスタ構成情報に存在しません。	クラスタ構成情報が不正です。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。
genw	警告	190	クラスタ構成情報から値の取得に失敗しました。	クラスタ構成情報が不正です。	Cluster WebUI で構成情報を確認してください。
genw	警告	190	スクリプトが存在しませんでした。	非同期タイプのスクリプトが異常終了しました	スクリプトが終了した原因を確認してください。
genw	エラー	200	タイムアウトが発生しました。	同期タイプのスクリプトがタイムアウト時間内に終了しませんでした。	スクリプトの終了が遅延した原因を確認してください。

4.5.6 HTTP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
httpw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
httpw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
httpw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
httpw	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
httpw	警告	116	サポートしていないアルゴリズムです (%1)。	サポートしていないアルゴリズムです。 %1 にはアルゴリズムが入ります。	-
httpw	警告	117	クライアント認証に失敗しました。	クライアント認証に失敗しました。	クライアント証明書サブジェクト名が正しく設定されているか確認してください。

次のページに続く

表 4.13 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
httpw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
httpw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
httpw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.7 IMAP4 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
imap4w	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.14 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
imap4w	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
imap4w	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
imap4w	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
imap4w	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
imap4w	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
imap4w	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.14 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
imap4w	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.8 IP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	エラー	4	Ping が届きませんでした。	Ping が届きませんでした。	該当 IP アドレスへの [ping] コマンドが成功するか確認して下さい。[ping] コマンドが失敗した場合は、該当 IP アドレスをもつ機器の状態、あるいはネットワークインタフェースの状態を確認してください。
ipw	警告	105	タイムアウトが発生しました。	タイムアウトが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.15 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
ipw	警告	189	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.9 NIC Link Up/Down 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
miiw	エラー	4	IP アドレスが存在しません。	IP アドレスが存在しません。	NIC の無効化を実行した可能性があります。 [ipconfig] コマンドで、指定 NIC の IP アドレスが存在するか確認してください。
miiw	エラー	8	NIC の Link Down を検出しました。	NIC の Link Down を検出しました。	LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
miiw	警告	105	IP アドレス一覧の取得に失敗しました。	IP アドレス一覧の取得に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
miiw	警告	106	NIC インターフェース名の取得に失敗しました。	NIC インターフェース名の取得に失敗しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.16 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
miiw	警告	107	NIC の状態取得に失敗しました。	NIC の状態取得に失敗しました。	NIC のデバイスがデバイス I/O コントロールに対応しているか確認してください。
miiw	警告	189	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.10 マルチターゲット監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
mtw	エラー	その他	内部エラーが発生しました。(status:%1)	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
mtw	エラー	5	リソースのステータスが異常です。	リソースのステータスが異常です。	監視リソース一覧に設定された監視リソースの状態を確認してください。
mtw	エラー	1	無効なオプションです。	無効なオプションです。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.11 プロセス名監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psw	エラー	4	監視対象プロセス (%1, pid=%2) の消滅を検知しました。	監視対象プロセスの消滅を検出しました。	監視対象プロセスが正しく動作しているか確認してください。
psw	エラー	5	監視対象プロセスは下限値を下回っています。プロセス数 %1/%2 (%3)	監視対象プロセスの起動プロセス数が指定された下限値未満になっています。	監視対象プロセスが正しく動作しているか確認してください。
psw	警告	100	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
psw	警告	190	パラメータが不正です。	監視の設定値が正しくない。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。

4.5.12 ODBC 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
odbcw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。
odbcw	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
odbcw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
odbcw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
odbcw	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.19 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
odbcw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
odbcw	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
odbcw	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
odbcw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
odbcw	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
odbcw	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.13 Oracle 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
oraclew	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。
oraclew	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
oraclew	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
oraclew	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
oraclew	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.20 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
oraclew	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
oraclew	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
oraclew	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
oraclew	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
oraclew	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
oraclew	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.14 POP3 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
pop3w	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
pop3w	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
pop3w	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
pop3w	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
pop3w	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
pop3w	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。

次のページに続く

表 4.21 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
pop3w	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
pop3w	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.15 PostgreSQL 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psqlw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

次のページに続く

表 4.22 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psqlw	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
psqlw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
psqlw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
psqlw	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
psqlw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
psqlw	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。

次のページに続く

表 4.22 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psqlw	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
psqlw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
psqlw	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
psqlw	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.16 サービス監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
servicew	エラー	9	サービスが停止状態です。	サービスが停止状態です。	サービスの状態を確認してください。
servicew	警告	100	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス制御権の取得に失敗しました。	サービス名が正しいか確認してください。
servicew	警告	その他	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.17 SMTP 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
smtpw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
smtpw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.24 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
smtpw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
smtpw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
smtpw	警告	115	データの異常を検出しました。	レスポンスデータの値が異常です。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
smtpw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
smtpw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
smtpw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.18 SQL Server 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sqlserverw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗と考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	OS 自体が異常状態になっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。
sqlserverw	警告	102	設定値が正しくありません。	監視の設定値が正しくありません。	Cluster WebUI での設定値が正しくないと考えられるため、設定値を確認してください。
sqlserverw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
sqlserverw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (データベース名など) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.25 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sqlserverw	警告	112	ユーザ認証で異常を検出しました。	データベースへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、データベースの異常がないか確認してください。
sqlserverw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	データベースの異常を検出しました。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
sqlserverw	エラー	14	SQL 文実行時の異常を検出しました [%1]。	SQL 文の実行に失敗しています。 %1 に実行した SQL 文が表示されます。	別途表示されているデータベースのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
sqlserverw	エラー	15	データの異常を検出しました。	データベースのテーブル内の値が異常です。	データベースが壊れている可能性がありますので、データベースの運用を中止し、調査してください。なお、同じ監視テーブル名で複数同時に監視を行っても、このエラーになることがあります。特に双方向環境での設定値に問題がないか確認してください。
sqlserverw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。

次のページに続く

表 4.25 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sqlserverw	警告	160	設定情報の取得に失敗しました。	設定値を取得できなかったことを示します。	OS が異常状態になっていると考えられるため、サーバの再起動などを行ってください。
sqlserverw	警告	190	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.5.19 Tuxedo 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
tuxw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (TUXCONFIG ファイルなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
tuxw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。

次のページに続く

表 4.26 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
tuxw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
tuxw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
tuxw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
tuxw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.20 WebSphere 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
wasw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
wasw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
wasw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
wasw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
wasw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
wasw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.21 WebLogic 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
wlsw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (IP アドレスなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
wlsw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
wlsw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
wlsw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
wlsw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
wlsw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.28 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
wls	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。 %1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.22 WebOTX 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
otxw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (サーバ名など) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。
otxw	エラー	12	ユーザ認証で異常を検出しました。	監視アプリケーションへの接続に失敗しています。	Cluster WebUI の設定値 (ユーザ名・パスワードなど) をまず確認します。問題がない場合は、監視アプリケーションの異常がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.29 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
otxw	警告	110	関数の異常を検出しました。	関数の異常が起きています。	監視アプリケーションまたは OS が異常状態になっていると考えられます。システム状態を確認してください。
otxw	警告	113	アプリケーションの異常を検出しました。	監視アプリケーションの異常を検出しました。	別途表示されている監視アプリケーションのエラーメッセージを参照して障害を取り除いてください。
otxw	警告	140	ライセンスが登録されていません。	ライセンスが登録されていません。	ライセンスを登録してください。
otxw	警告	188	内部エラーを検出しました。	内部エラーが発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
otxw	警告	190	初期化に失敗しました [%1]。	初期化処理に失敗しています。メモリ確保などの失敗や設定値の取得失敗が考えられます。%1 に初期化の内容が示されることがあります。	Cluster WebUI での設定値が正しくない可能性があります。設定値を確認してください。設定値に問題が無い場合は OS 自体が異常状態となっている可能性があるため、サーバの再起動などを行ってください。

4.5.23 JVM 監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
jraw	エラー	11	監視対象への接続で異常を検出しました。	監視対象への接続が失敗しました。	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
jraw	エラー	12	監視対象の %1 が異常状態になりました。 %1：異常発生原因	監視対象の障害を検出しました。	メッセージを元に監視対象の Java VM 上で動作している Java アプリケーションを確認してください。
jraw	警告	192	内部エラーが発生しました。	内部エラーが発生しました。	クラスタサスペンドおよびクラスタリジュームを実行してください。

4.5.24 システム監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
sraw	エラー	11	監視 sraw は異常を検出しました。(11：system resource 異常を検出しました)	システムリソースの監視で異常を検出しました。	リソースに関する何らかの異常が考えられます。確認してください。

4.5.25 プロセスリソース監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
psrw	エラー	11	監視 psrw は異常を検出しました。(11 : process resource 異常を検出しました)	プロセスリソースの監視で異常を検出しました	リソースに関する何らかの異常が考えられます。確認してください。

4.5.26 ユーザ空間監視リソース

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
userw	エラー	71	ダミースレッド作成処理でタイムアウトを検出しました。	ダミースレッド作成処理でタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
userw	警告	100	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	内部リソースの初期化処理でタイムアウトを検出しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
userw	警告	101	ダミースレッドハンドルのクローズ処理でタイムアウトを検出しました。	ダミースレッドハンドルのクローズ処理でタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

次のページに続く

表 4.33 – 前のページからの続き

モジュールタイプ	分類	返値	メッセージ	説明	対処
userw	警告	102	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	その他不整合によるタイムアウトを検出しました。	システム高負荷、メモリ不足、または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。
userw	警告	190	内部リソースの初期化異常が発生しました。	内部リソースの初期化異常が発生しました。	メモリ不足または OS のリソース不足が考えられます。確認してください。

4.6 ディスク RW 監視リソースの STOP コード一覧

以下の情報はディスク RW 監視リソースの『ストール異常検出時動作』で

「意図的なストップエラーの発生」を選択した場合に発生させる STOP コードの一覧です。

STOP コード	内容
0xE0000000	グループリソースの活性/非活性失敗時、モニタリソースの異常検出時の最終動作として発生させた STOP エラー
0xE000FF**	キープアライブタイムアウト (ディスク RW 監視のタイムアウト) により発生させた STOP エラー 下位 8 ビット (** の部分) は、下記のチェックポイント (タイムアウト時に実行されていた可能性が高い処理) を示す。
0xE000FF00	CLUSTERPRO の内部処理
0xE000FF01	free(), SetWaitableTimer(), GetTickCount(), WaitForMultipleObjects()
0xE000FF02	CreateFile(), _beginthreadex()
0xE000FF03	malloc(), WriteFile()
0xE000FF04	FlushFileBuffers()
0xE000FF05	CloseHandle()
0xE000FF06	CLUSTERPRO の内部処理

4.7 JVM 監視リソースのログ出力メッセージ

以下のメッセージは JVM 監視リソース独自のログファイルである JVM 運用ログのメッセージ一覧です。

作成場所は以下のとおりです。

JVM 運用ログ

<CLUSTERPRO インストールパス>\log\ha\jra\jragent*.log(*は 0 から始まる数字)

4.7.1 JVM 運用ログ

メッセージ	発生原因	対処方法
Failed to write the %1.stat.	JVM 統計ログファイルの書き込みに失敗しました。 %1.stat : JVM 統計ログファイル名	ディスク空き容量が十分か確認してください。
%1: analyze finish[%4]. state = %2, cause = %3	(監視対象の Java VM の状態が異常時) 監視対象の Java VM でリソース使用量がしきい値を超えました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:監視対象の Java VM の状態 (1=正常,0=異常) %3:異常発生時のエラー発生箇所 %4:計測スレッド名	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
thread stopped by UncaughtException.	JVM 監視リソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
thread wait stopped by Exception.	JVM 監視リソースのスレッドが停止しました。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: monitor thread can't connect to JVM.	監視対象の Java VM へ接続できませんでした。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
%1: monitor thread can't get the JVM state.	監視対象の Java VM からリソース使用量が取得できませんでした。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
%1: JVM state is changed [abnormal -> normal].	監視対象の Java VM の状態が異常から正常へ変化しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	-
%1: JVM state is changed [normal -> abnormal].	監視対象の Java VM の状態が正常から異常へ変化しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Failed to connect to JVM. retry = %2 / %3.	監視対象の Java VM へ接続できませんでした。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:連続で接続に失敗した回数 %3:リトライ回数 ※「retry = %2 / %3」は、連続で接続に失敗した回数がリトライ回数を超えた後は出力されません。	監視対象の Java VM が起動されていることを確認してください。
Failed to write exit code.	JVM 監視リソースが終了コードを記録するファイルに書き込みできませんでした。	ディスク空き容量が十分か確認してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
Failed to be started JVM Monitor.	JVM 監視リソースの起動に失敗しました。	JVM 運用ログを確認して開始できない原因を取り除いてから、クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
JVM Monitor already started.	JVM 監視リソースはすでに起動しています。	クラスタサスペンド/クラスタレジュームを実行し、JVM 監視リソースを再起動してください。
%1: GARBAGE_COLLECTOR_MXBEAN_DOMAIN_TYPE is invalid.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: GarbageCollectorMXBean is invalid.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の作環境が正しいか確認してください。
%1: Failed to measure the GC stat.	監視対象の Java VM から GC 情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: GC stat is invalid. last.getCount = %2, last.getTime = %3, now.getCount = %4, now.getTime = %5.	監視対象の Java VM から GC 発生回数、GC 実行時間の計測に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:前回計測時点の GC 総実行時間 %4:今回計測時点の GC 発生回数 %5:今回計測時点の GC 総実行時間	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: GC average time is too long. av = %6, last.getCount = %2, last.getTime = %3, now.getCount = %4, now.getTime = %5, error_count = %7 / %8.	監視対象の Java VM で GC 実行時 間の平均がしきい値を超えてい ます。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:前回計測時点の GC 総実行 時間 %4:今回計測時点の GC 発生回数 %5:今回計測時点の GC 総実行 時間 %6:前回計測時点から今回計測時 点までに実行された GC 実行時間 の平均 %7:しきい値を連続して超えた 回数 %8:異常判定しきい値 ※「error_count = %7 / %8」は、し きい値を連続して超えた回数が異 常判定しきい値を超えた後は出力 されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直して ください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: GC average time is too long compared with the last connection. av = %6, last.getCount = %2, last.getTime = %3, now.getCount = %4, now.getTime = %5, error_count = %7 / %8.	<p>監視対象の Java VM へ再接続した後、監視対象の Java VM で GC 実行時間の平均がしきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:前回計測時点の GC 発生回数</p> <p>%3:前回計測時点の GC 総実行時間</p> <p>%4:今回計測時点の GC 発生回数</p> <p>%5:今回計測時点の GC 総実行時間</p> <p>%6:前回計測時点から今回計測時点までに実行された GC 実行時間の平均</p> <p>%7:しきい値を連続して超えた回数</p> <p>%8:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %7 / %8」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: GC count is too frequently. count = %4 last.getCount = %2, now.getCount = %3, error_count = %5 / %6.	監視対象の Java VM で GC 発生回 数がしきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:今回計測時点の GC 発生回数 %4:前回計測時点から今回計測時 点までの GC 発生回数 %5:しきい値を連続して超えた 回数 %6:異常判定しきい値 ※「error_count = %5 / %6」は、し きい値を連続して超えた回数が異 常判定しきい値を超えた後は出力 されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直して ください。
%1: GC count is too frequently compared with the last connection. count = %4 last.getCount = %2, now.getCount = %3, error_count = %5 / %6.	監視対象の Java VM へ再接続した 後、監視対象の Java VM で GC 発 生回数がしきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の GC 発生回数 %3:今回計測時点の GC 発生回数 %4:前回計測時点から今回計測時 点までの GC 発生回数 %5:しきい値を連続して超えた 回数 %6:異常判定しきい値 ※「error_count = %5 / %6」は、し きい値を連続して超えた回数が異 常判定しきい値を超えた後は出力 されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直して ください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: RuntimeMXBean is invalid.	監視対象の Java VM から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: Failed to measure the runtime stat.	監視対象の Java VM から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。 監視対象の Java VM で処理負荷が高くなっていないかを確認してください。
%1: MEMORY_MXBEAN_NAME is invalid. %2, %3.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:メモリプールの名称 %3:メモリの名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: MemoryMXBean is invalid.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: Failed to measure the memory stat.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。 監視対象の Java VM で処理負荷が高くなっていないかを確認してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: MemoryPool name is undefined. memory_name = %2.	監視対象の Java VM からメモリ情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測対象の Java メモリプール名	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: MemoryPool capacity is too little. memory_name = %2, used = %3, max = %4, ratio = %5, error_count = %6 / %7.	監視対象の Java VM の Java メモリプールの空き容量がしきい値を下回りました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測対象の Java メモリプール名 %3:Java メモリプールの使用量 %4:Java メモリプールの使用可能な最大量 %5:Java メモリプールの利用率 %6:しきい値を連続して超えた回数 %7:異常判定しきい値 ※「error_count = %6 / %7」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: THREAD_MXBEAN_NAME is invalid.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: ThreadMXBean is invalid.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Failed to measure the thread stat.	監視対象の Java VM からスレッド情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: Detect Deadlock. threads = %2.	監視対象の Java VM でスレッドのデッドロックが発生しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:デッドロックしたスレッドの ID	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Thread count is too much(%2). error_count = %3 / %4.	監視対象の Java VM でスレッドの起動数がしきい値を超えました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測時点でのスレッド起動数 %3:しきい値を連続して超えた回数 %4:異常判定しきい値 ※「error_count = %3 / %4」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。	監視対象の Java VM 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: ThreadInfo is null.Thread count = %2.	監視対象の Java VM でスレッドの情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測時点でのスレッド起動数	監視対象の Java VM のバージョンの動作環境が正しいか確認してください
%1: Failed to disconnect.	監視対象の Java VM からの切断に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	-

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Failed to connect to WebLogic-Server.	監視対象の WebLogic Server の接続に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Failed to connect to Sun JVM.	監視対象の Java VM、WebOTX の接続に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM、WebOTX 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
Failed to open the %1.	JVM 統計ログの出力に失敗しました。 %1:HA/JVMSaverJVM 統計ログファイル名称	ディスク空き容量が十分か、オープン済みのファイル数が上限を超えていないか確認してください。
%1: Can't find monitor file.	監視をしません。 %1:監視対象の Java VM 名称	-
%1: Can't find monitor file, monitor stopped[thread:%2].	監視を停止します。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:計測スレッドの種類	-
%1: Failed to create monitor status file.	内部ファイルの作成に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	ディスク空き容量やボリュームのファイル最大数が十分か確認してください。
%1: Failed to delete monitor status file.	内部ファイルの削除に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	ハードディスクに問題がないか確認してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: com.bea:Type=ServerRuntime is invalid.	監視対象の Java VM から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の Java VM の動作環境が正しいか確認してください。
%1: WorkManagerRuntimeMBean or ThreadPoolRuntimeMBean is invalid.	監視対象の WebLogic Server から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。
%1: Failed to measure the WorkManager or ThreadPool stat.	監視対象の WebLogic Server から情報取得に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称	監視対象の WebLogic Server の動作環境が正しいか確認してください。
%1: ThreadPool stat is invalid. last.pending = %2, now.pending = %3.	監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の計測に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の待機リクエスト数 %3:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server のバージョンの動作環境が正しいか確認してください。
%1: WorkManager stat is invalid. last.pending = %2, now.pending = %3.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数の計測に失敗しました。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:前回計測時点の待機リクエスト数 %3:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server のバージョンの動作環境が正しいか確認してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest count is too much. count = %2, error_count = %3 / %4.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:今回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%3:しきい値を連続して超えた回数</p> <p>%4:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %3 / %4」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: PendingRequest increment is too much. increment = %4, last.pending = %2, now.pending = %3, error_count = %5 / %6.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:前回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%3:今回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%4:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分</p> <p>%5:しきい値を連続して超えた回数</p> <p>%6:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %5 / %6」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest increment is too much compared with the last connection. increment = %4, last.pending = %2, now.pending = %3, error_count = %5 / %6.	<p>監視対象の WebLogic Server へ再接続した後、監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:前回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%3:今回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%4:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分</p> <p>%5:しきい値を連続して超えた回数</p> <p>%6:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %5 / %6」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Throughput count is too much. count = %2, error_count = %3 / %4.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称 %2:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数 %3:しきい値を連続して超えた回数 %4:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %3 / %4」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Throughput increment is too much. increment = %4, last.throughput = %2, now.throughput = %3, error_count = %5 / %6.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:前回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p> <p>%3:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p> <p>%4:前回計測時点から今回計測時点までの単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分</p> <p>%5:しきい値を連続して超えた回数</p> <p>%6:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %5 / %6」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Throughput increment is too much compared with the last connection. increment = %4:, last.throughput = %2, now.throughput = %3, error_count = %5 / %6.	<p>監視対象の WebLogic Server へ再接続した後、監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:前回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p> <p>%3:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p> <p>%4:前回計測時点から今回計測時点までの単位時間あたりに実行したリクエスト数の増分</p> <p>%5:しきい値を連続して超えた回数</p> <p>%6:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %5 / %6」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest count is too much. appName = %2, name = %3, count = %4, error_count = %5 / %6.	<p>監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名 %4:待機リクエスト数 %5:しきい値を連続して超えた回数 %6:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %5 / %6」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest increment is too much. appName = %2, name = %3, increment = %6, last.pending = %4, now.pending = %5, error_count = %7 / %8.	<p>監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエストの数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:アプリケーション名</p> <p>%3:ワークマネージャ名</p> <p>%4:前回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%5:今回計測時点の待機リクエスト数</p> <p>%6:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分</p> <p>%7:しきい値を連続して超えた回数</p> <p>%8:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %7 / %8」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: PendingRequest increment is too much compared with the last connection. AppName = %2, Name = %3, increment = %6, last.pending = %4, now.pending = %5, error_count = %7 / %8.	<p>監視対象の WebLogic Server へ再接続した後、監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数の増分が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名 %4:前回計測時点の待機リクエストの数 %5:今回計測時点の待機リクエストの数 %6:前回計測時点から今回計測時点までの待機リクエスト数の増分 %7:しきい値を連続して超えた回数 %8:異常判定しきい値</p> <p>※「error_count = %7 / %8」は、しきい値を連続して超えた回数が異常判定しきい値を超えた後は出力されません。</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Can't find WorkManager. app-Name = %2, name = %3.	<p>設定したワークマネージャが WebLogic Server から取得できません。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名</p>	[監視対象の WebLogic ワークマネージャ] の設定を見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: analyze of average start[%2].	<p>平均値の分析を開始しました。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:スレッド名</p>	-
%1: analyze of average finish[%2].state = %3.	<p>平均値の分析が終了しました。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:スレッド名</p> <p>%3:監視対象の状態</p>	-
%1: Average of PendingRequest count is too much. count = %2.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:今回計測時点の待機リクエスト数</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
%1: Average of Throughput count is too much. count = %2.	<p>監視対象の WebLogic Server のスレッドプールで単位時間あたりに実行したリクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。</p> <p>%1:監視対象の Java VM 名称</p> <p>%2:今回計測時点の単位時間あたりに実行したリクエスト数</p>	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。

次のページに続く

表 4.35 – 前のページからの続き

メッセージ	発生原因	対処方法
%1: Average of PendingRequest count is too much. AppName = %2, Name = %3, count = %4.	監視対象の WebLogic Server のワークマネージャで待機リクエスト数の平均値が、しきい値を超えています。 %1:監視対象の Java VM 名称 %2:アプリケーション名 %3:ワークマネージャ名 %4:今回計測時点の待機リクエスト数	監視対象の WebLogic Server 上で動作する Java アプリケーションを見直してください。
Error: Failed to operate clpjra_bigip.[%1]	%1:エラーコード	設定内容を見直してください。

4.8 ユーザ空間監視リソースの **STOP** コード一覧

以下の情報はユーザ空間監視リソースの『ストール異常検出時動作』で

「意図的なストップエラーの発生」を選択した場合に発生させる **STOP** コードの一覧です。

STOP コード	内容
0xE0000000	モニタリソースの異常検出時の最終動作として発生させた STOP エラー
0xE000FF** 下位 8 ビット (** の部分) は、 下記のチェック ポイント (タイ ムアウト時に実 行されていた可 能性が高い処 理) を示す。	キープアライブタイムアウト (ユーザ空間監視のタイムアウト) により発生させた STOP エラー
0xE000FF00	CLUSTERPRO の内部処理
0xE000FF01	SetWaitableTimer(), GetTickCount(), WaitForMultipleObjects()
0xE000FF02	_beginthreadex(), WaitForMultipleObjects()
0xE000FF05	CloseHandle()
0xE000FF06	CLUSTERPRO の内部処理

4.9 クラスタ構成情報チェックの詳細情報

4.9.1 クラスタプロパティ

チェック内容	ID	メッセージ	対処
ポート番号タブのポート番号 チェック	1011	チェック処理が失敗しました。	netsh コマンドが使用可能であるか確認してください。
	1012	ポート番号 %1 は自動割り当てポートに含まれています。	自動割り当てポート範囲外のポート番号を設定してください。

4.9.2 非推奨設定確認

チェック内容	ID	メッセージ	対処
非活性異常時の復旧動作 チェック (%1)	6001	非活性異常検出時の復旧動作が「何もしない」に設定されています。 「何もしない」以外を設定することを推奨します。	非活性異常検出時の最終動作は「何もしない」以外を設定することを推奨します。

第 5 章

免責・法的通知

5.1 免責事項

- 本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。
- 日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいせん。また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。
- 本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

5.2 商標情報

- CLUSTERPRO® は、日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Internet Explorer、Azure、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標です。
- Oracle、Oracle Database、Solaris、MySQL、Tuxedo、WebLogic Server、Container、Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- WebOTX は、日本電気株式会社の登録商標です。
- F5、F5 Networks、BIG-IP、および iControl は、米国および他の国における F5 Networks, Inc. の商標または登録商標です。
- IBM、DB2、WebSphere は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL Global Development Group の登録商標です。
- 本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

第 6 章

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2023/04/10	新規作成
2	2023/05/26	誤記修正
3	2023/06/30	誤記修正
4	2023/07/28	誤記修正
5	2023/09/29	誤記修正
6	2024/01/26	誤記修正